

令和5年度 中央国有林材供給調整検討委員会 議事次第

令和5年11月29日 10:00~12:00

林野庁 AB 会議室

1 開 会

2 挨拶（林野庁国有林野部長 橋 政行）

3 出席者紹介

4 議 事

（1） 木材需給動向について

（2） 国有林材の供給状況等について

（3） 令和5年度各森林管理局の国有林材供給調整検討委員会の
検討結果について

（4） 意見交換

5 挨拶（林野庁業務課長 嶋田 理）

6 閉 会

○配布資料

（1） 出席者名簿

（2） 資料1 木材需給動向について

（3） 資料2 国有林材の販売状況について

（4） 資料3 令和5年度 各森林管理局の国有林材供給調整検討委員会の
検討結果について

令和5年度 中央国有林材供給調整検討委員会 出席者

○委員

分野	所属・役職名	氏名	参加方式
原木流通(北海道)	物林 株式会社 営業本部 札幌支店長	なかね もとなり 中根 幹成	会場
原木流通(東北)	ノースジャパン素材流通協同組合 参与兼経営企画管理部長	いちじょう かつや 一条 克也	会場
製材(関東)	協和木材 株式会社 代表取締役	さがわ ひろおき 佐川 広興	会場
市場(中部)	株式会社 東海木材相互市場 代表取締役会長	すずき かずお 鈴木 和雄	会場
合板(近畿中国)	林ベニヤ産業 株式会社 代表取締役社長	ないとう かずゆき 内藤 和行	会場
製材(四国)	八幡浜官材協同組合 代表理事	まつしろ たかゆき 松代 孝幸	会場
素材生産(九州)	株式会社日高勝三郎商店 代表取締役	ひだか かつきぶろう 日高 勝三郎	会場
学識経験者	NPO法人活木活木(いきいき)森ネットワーク 理事長	えんどう くさお 遠藤 日雄	会場
所有者	全国森林組合連合会 系統事業部長 兼 購買課長	きくち ひであき 菊地 英晃	会場
所有者 (住宅・バイオマス)	住友林業 株式会社 資源環境事業本部 森林資源部 部長	にしむら せん 西村 千	会場
市場・製品販売	東京中央木材市場株式会社 代表取締役社長	いじま よしお 飯島 義雄	会場
学識経験者	国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林業経営・政策研究領域長	くぼやま ひろふみ 久保山 裕史	WEB
学識経験者	筑波大学 生命環境系 准教授	たちばな きとし 立花 敏	会場

○林野庁

所属・役職名	氏名
国有林野部長	橘 政行
国有林野部 業務課 課長	嶋田 理
〃 企画官(国有林材安定供給担当)	間島 重道
〃 企画官(水源地域整備担当)	三重野 裕通
〃 供給企画班担当課長補佐	川本 芳光
〃 供給対策班担当課長補佐	藤本 達之

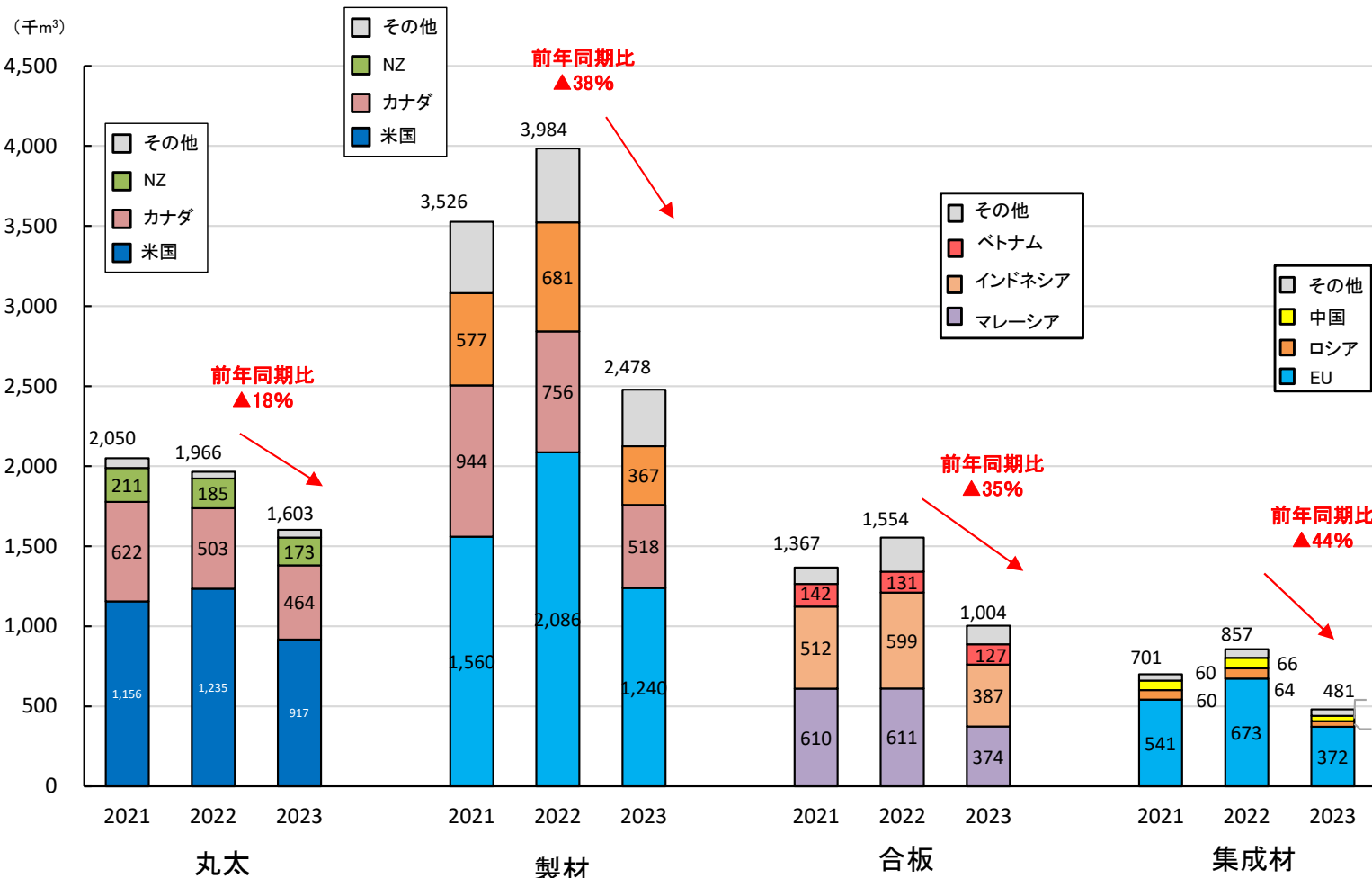
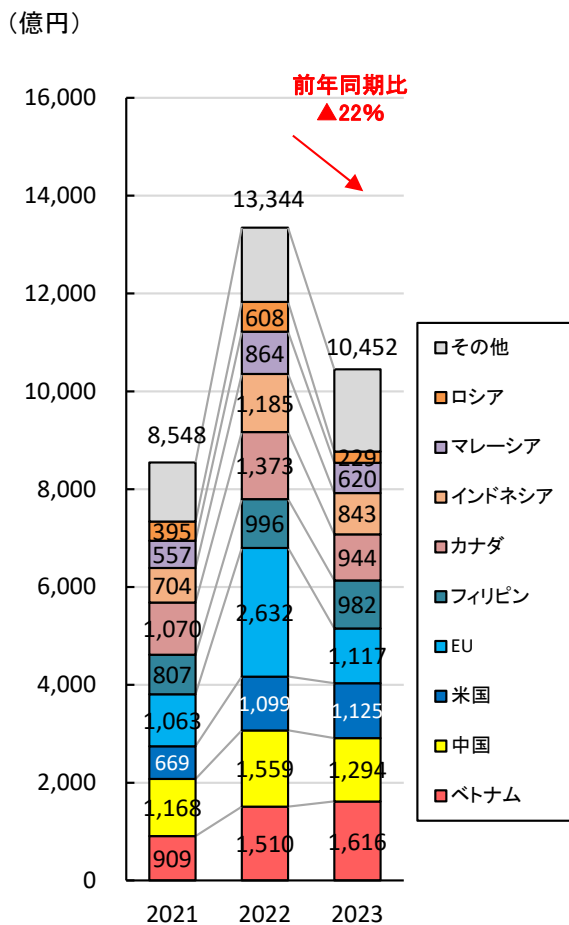
○森林管理局

北海道森林管理局 資源活用課	WEB
東北森林管理局 資源活用課	WEB
関東森林管理局 資源活用課	WEB
中部森林管理局 資源活用課	WEB
近畿中国森林管理局 資源活用課	WEB
四国森林管理局 資源活用課	WEB
九州森林管理局 資源活用課	WEB

木材需給動向について

2023年9月までの木材輸入実績(金額・材積累計)

- 2023年1～9月の木材輸入額累計は、前年同期比▲22%減の1兆452億円。
- 品目別の輸入量を見ると、丸太が前年同期比▲18%減、製材が同▲38%減、合板が同▲35%減、集成材が同▲44%減。
- なお、2021年同期と比較すると、2023年1～9月の木材輸入額累計は同+22%増。品目別輸入量では、丸太が同▲22%減、製材が同▲30%減、合板が同▲27%減、集成材が同▲31%減。



資料:財務省「貿易統計」

木材輸入額の推移
(2021～2023年における1～9月累計)

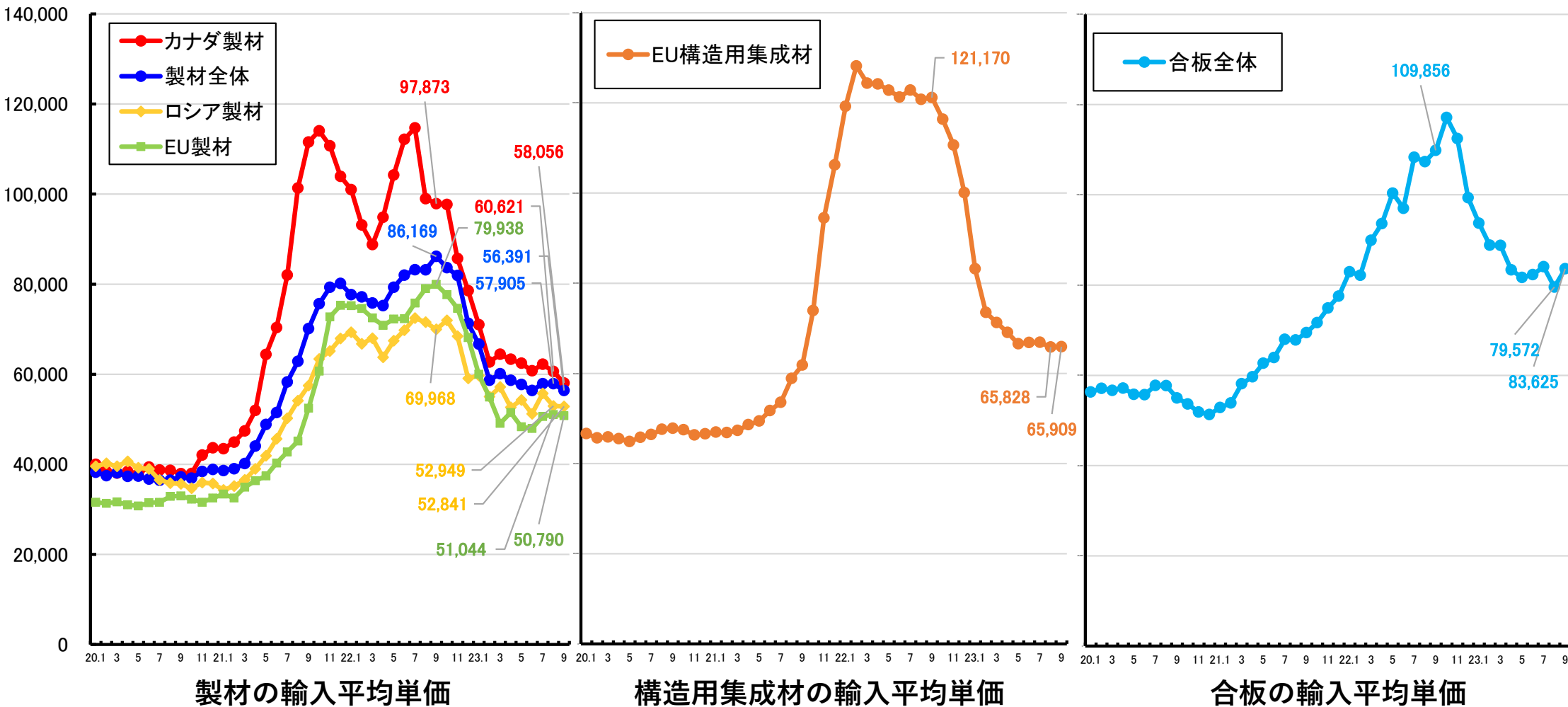
資料:財務省「貿易統計」

品目別木材輸入量の推移
(2021～2023年における1～9月累計)

製材・構造用集成材・合板の輸入平均単価

- 2023年9月の製材輸入平均単価（総輸入額／総輸入量）は、前月比▲3%減の56,391円/m³（前年同月比▲35%減）。うち、カナダの製材は、前月比▲4%減の58,056円/m³（前年同月比▲41%減）、EUの製材は、前月比▲0%減の50,790円/m³（前年同月比▲36%減）、ロシアの製材は、前月比▲0%減の52,841円/m³（前年同月比▲24%減）。
- 同月のEUからの構造用集成材輸入平均単価は、前月比+0%増の65,909円/m³（前年同月比▲46%減）。
- 同月の合板輸入平均単価は、前月比+5%増の83,625円/m³（前年同月比▲24%減）。

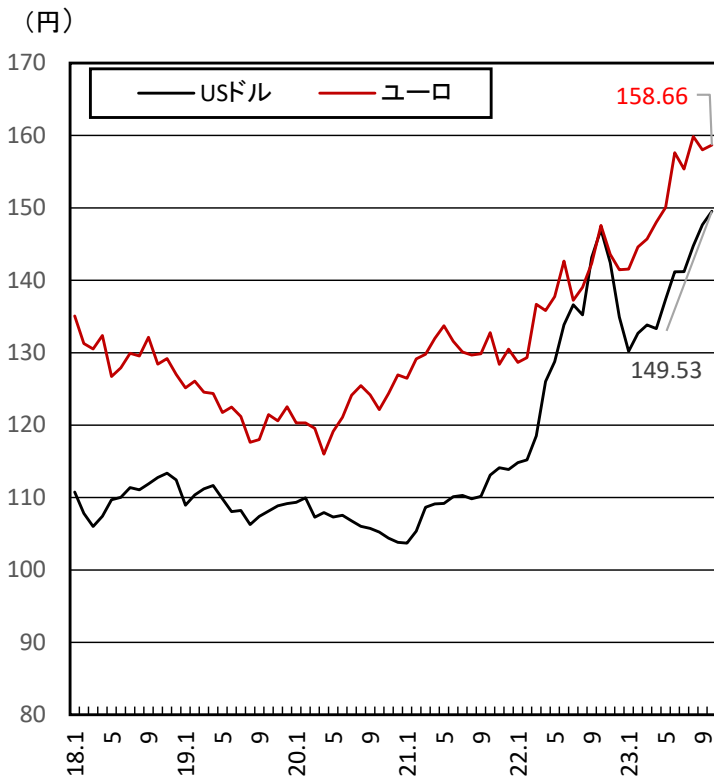
(円/m³)



注：輸入平均単価は、総輸入額を総輸入量で割った値。

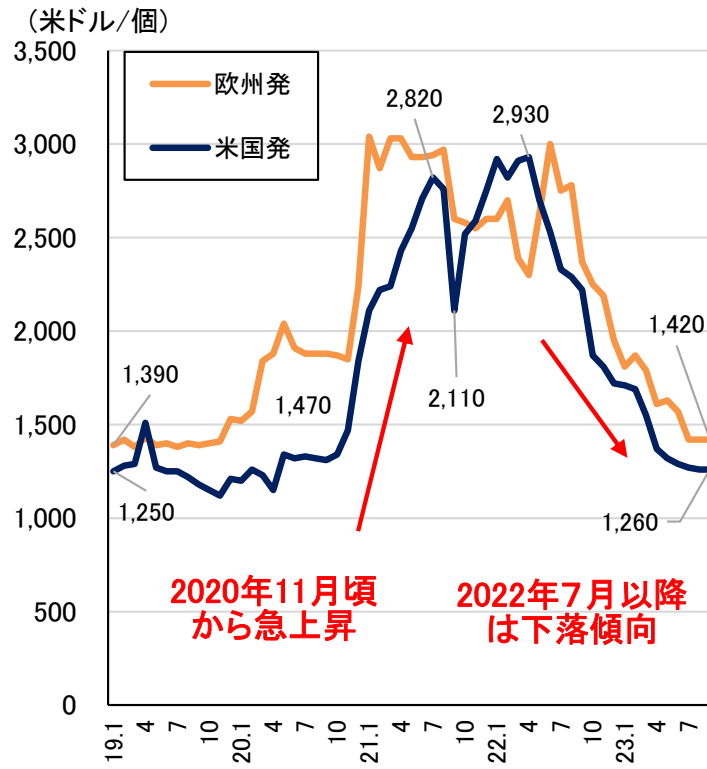
為替相場、コンテナ運賃、米国における木材価格の動向等

- USドル及びユーロ為替相場は2022年に大幅に上昇したのち、年末にかけて一度下落したが、今年に入りまた上昇傾向が続いており、2023年10月の為替相場は、1ドル149.53円、1ユーロ158.66円。
- 世界的なコンテナ不足により、海上輸送運賃が急激に上昇。日本向けコンテナ運賃は、2020年11月頃から急上昇し、その後は欧州発、米国発ともに高値を維持していたが、2022年7月以降は下落傾向が続き、2019年ごろの水準に近づく。
- 米国の住宅着工戸数(戸建て計)は、2022年5月からは、住宅ローン金利の急騰により下落傾向となっており、2023年9月は前月比+7%増の136万戸となった。
- 北米の木材価格は、2020年夏以降乱高下を繰り返してきたが、今年はそのような変動は見られず、2023年10月には388ドル/mbf(前月比▲9%減)となった。



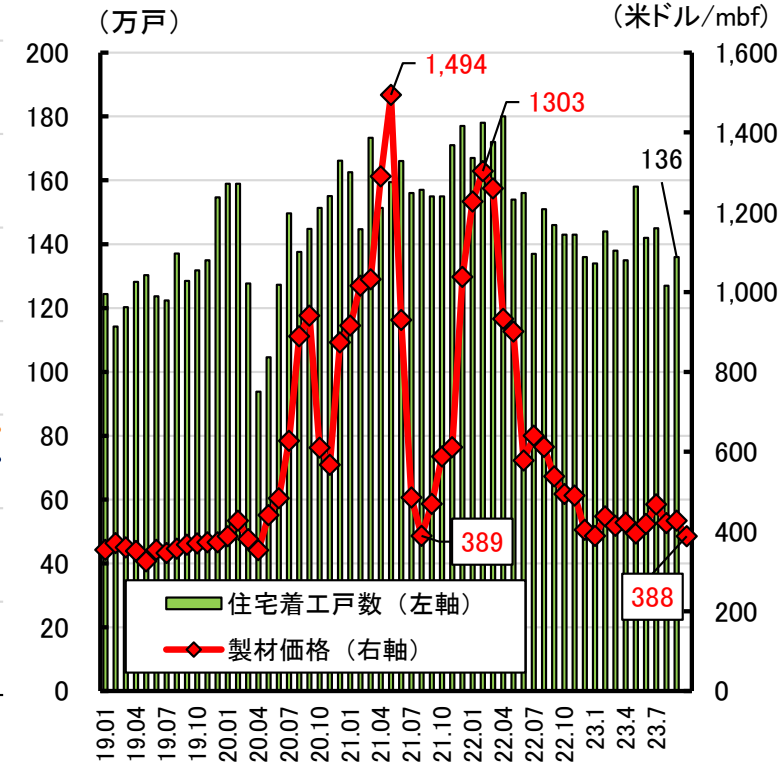
USドル及びユーロ為替相場

資料：USドルは日銀 主要時系列統計データ表、為替相場
(東京市場 スポットレート 中心相場 月中平均)
ユーロは日銀「金融経済統計月報」対顧客為替相場



日本向けコンテナ運賃の推移

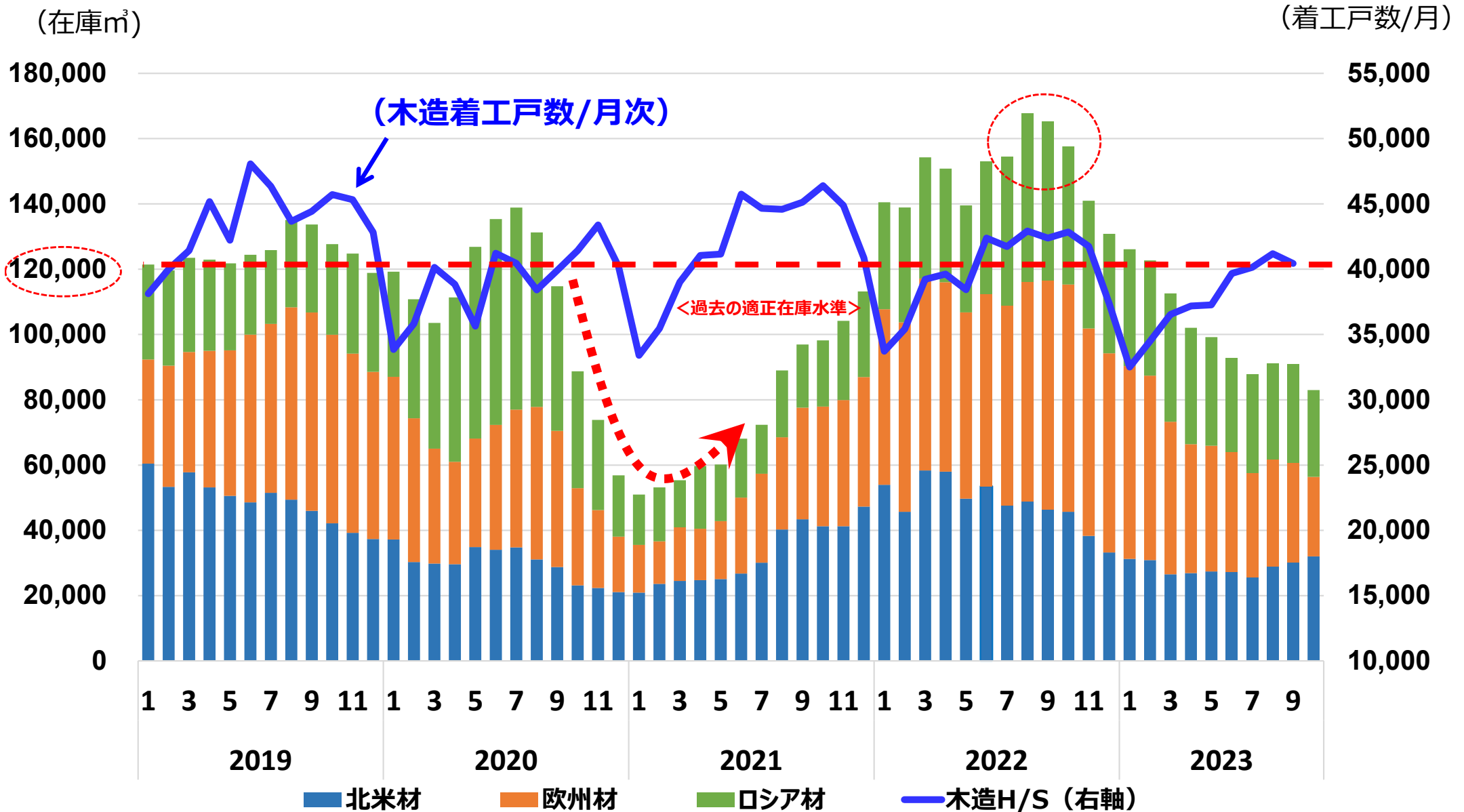
資料：日本海事センター「主要航路コンテナ運賃動向」
(注) 40ftコンテナ。「米国発」はLos Angeles発横浜着、
「欧州発」はRotterdam発横浜着。
(出典) Drewry「Container Freight Rate Insight」



米国における住宅着工戸数と製材価格の推移

資料：(住宅着工戸数) 米国商務省「住宅着工統計」
(季節調整済み、年率換算、戸建て計)
(製材価格) Random Lengths「Framing Lumber Composite Price」
(月末価格、2022年6以降は月中価格)

「東京港製材品在庫」と木造着工数の推移

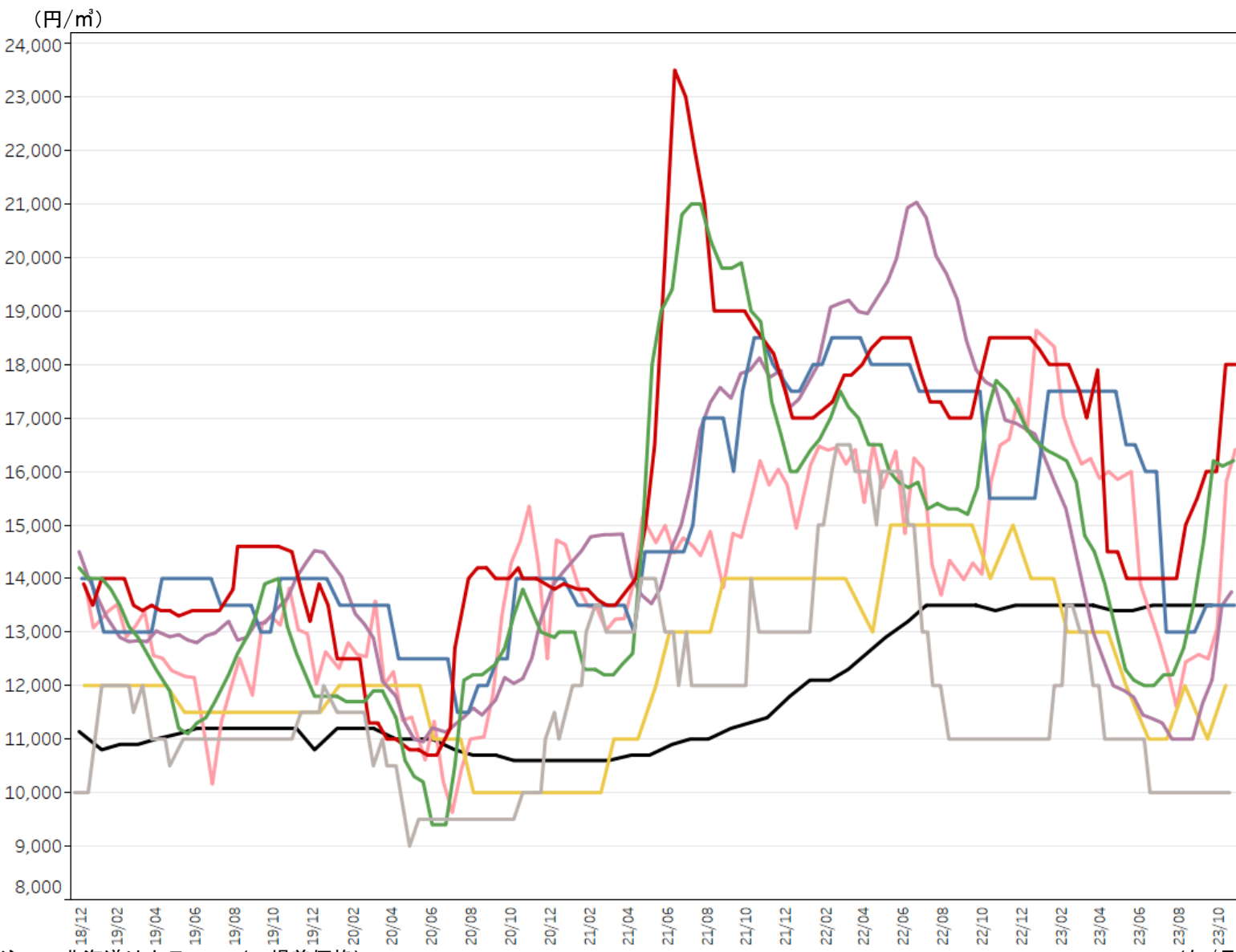


資料：日本木材輸入協会作成（データの出典：東京港在庫「東京木材埠頭（株）」、木造着工数「国土交通省（住宅着工統計）」

1 価格の動向 (1) 原木価格 (原木市場・共販所)

ア スギ (全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

- 全国の原木市場・共販所において、直近のスギ原木価格は、10,000円~18,000円/m³となっている。



(単位：円/m³)

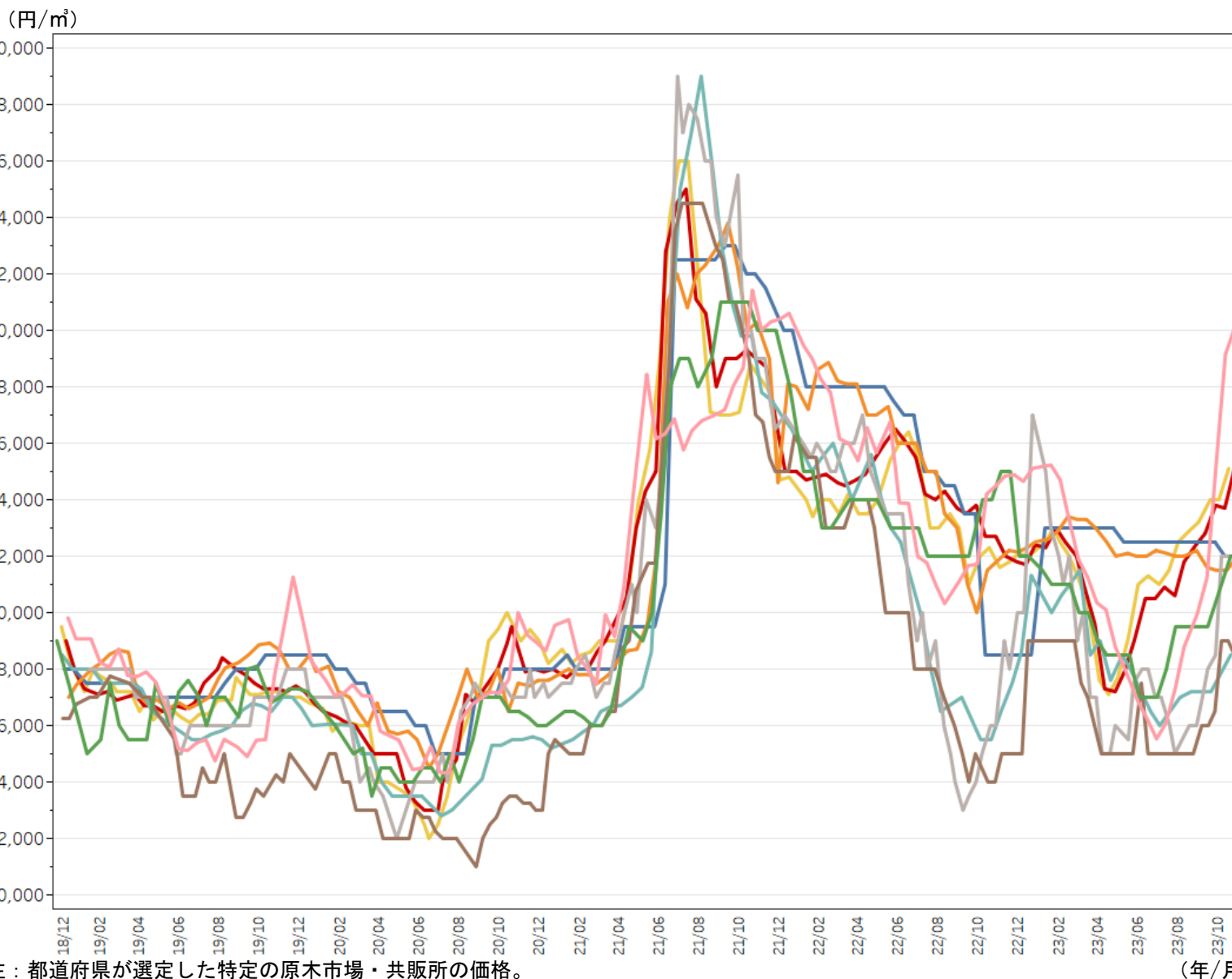
都道府県	2023年直近*	前年同期	前年同期比
北海道	13,500	13,500	100%
秋田県	13,750	17,570	78%
栃木県	16,410	16,490	100%
長野県	12,000	14,000	86%
岡山県	10,000	11,000	91%
高知県	13,500	15,500	87%
熊本県	18,000	18,500	97%
宮崎県	16,200	17,700	92%

※北海道については9月、秋田県、栃木県、長野県、岡山県、高知県、熊本県及び宮崎県については10月の値を使用。

注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。
注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

イ ヒノキ（全国） 径24cm程度、長3.65～4.0m（2018年12月～）

・ 全国の原木市場・共販所において、直近のヒノキ原木価格は、18,500円～30,070円/m³となっている。



(単位：円/m³)

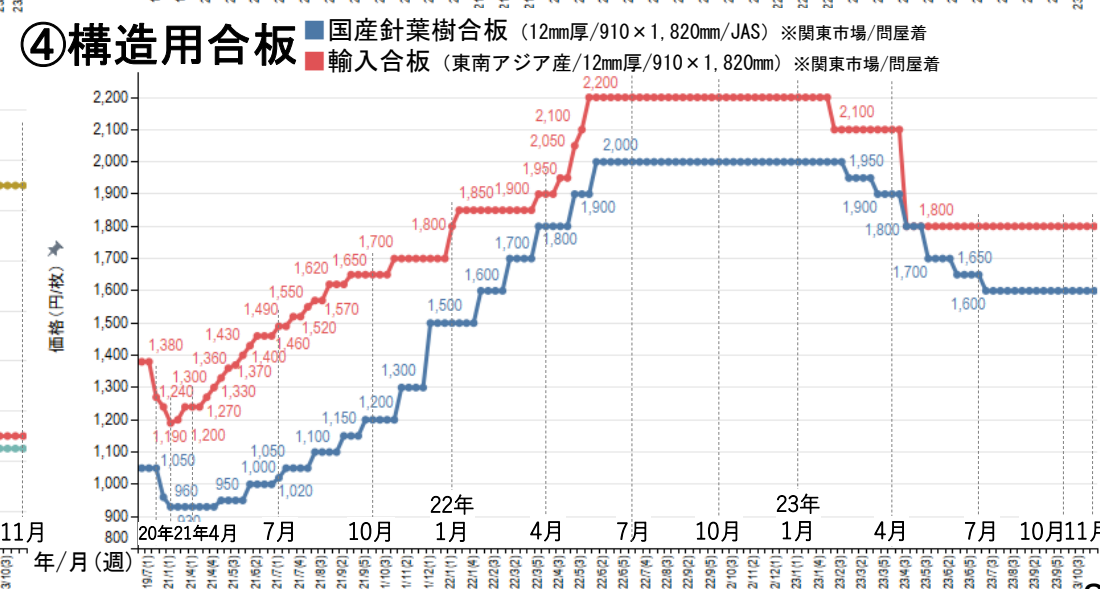
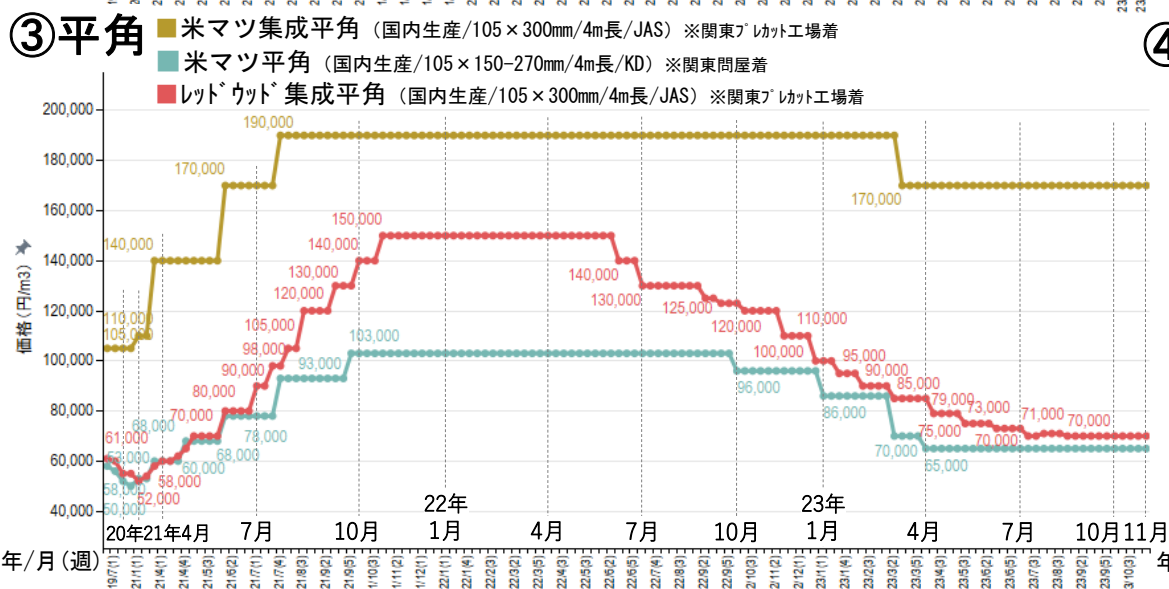
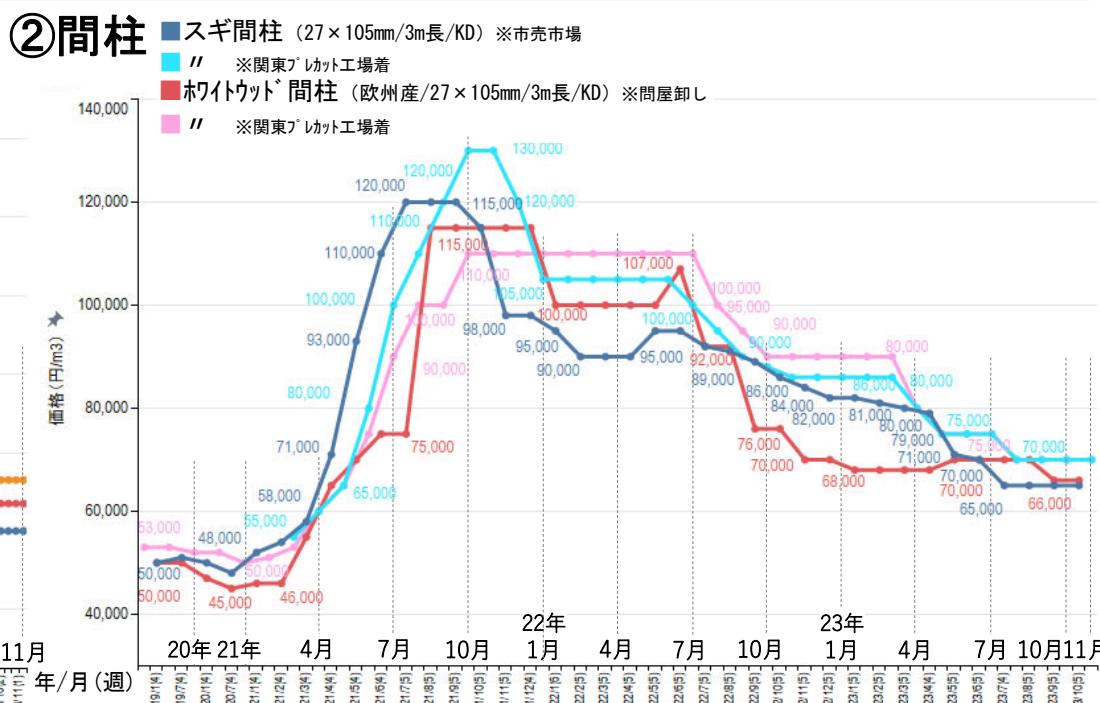
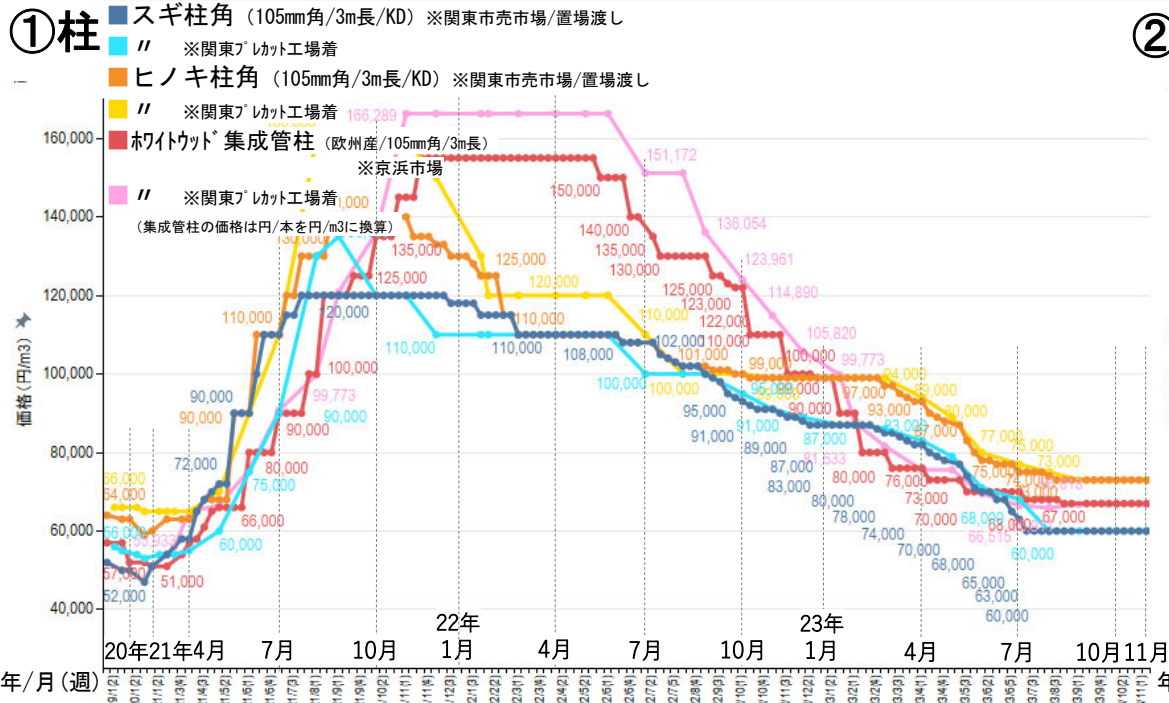
都道府県	2023年直近*	前年同期	前年同期比
栃木県	30,070	24,490	123%
静岡県	22,000	24,000	92%
兵庫県	18,500	14,000	132%
岡山県	22,000	16,000	138%
広島県	18,500	15,500	119%
愛媛県	21,900	21,800	100%
高知県	22,000	18,500	119%
熊本県	25,200	22,700	111%
大分県	25,100	22,300	113%

※各県10月の値を使用。

注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。
資料：林野庁木材産業課調べ

(2) 製品価格

- 令和3(2021)年は、世界的な木材需要の高まり等により輸入材製品価格が高騰し、代替需要により国産材製品価格も上昇。令和4(2022)年以降、柱、間柱、平角の価格は下落傾向。構造用合板の価格は、令和5(2023)年以降、下落傾向。

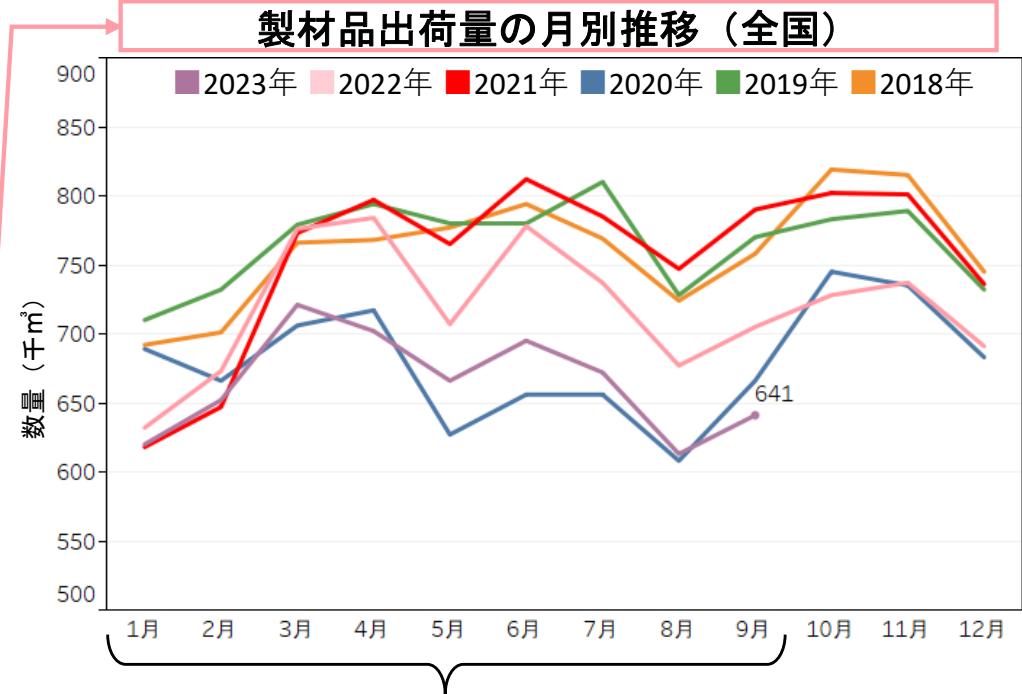
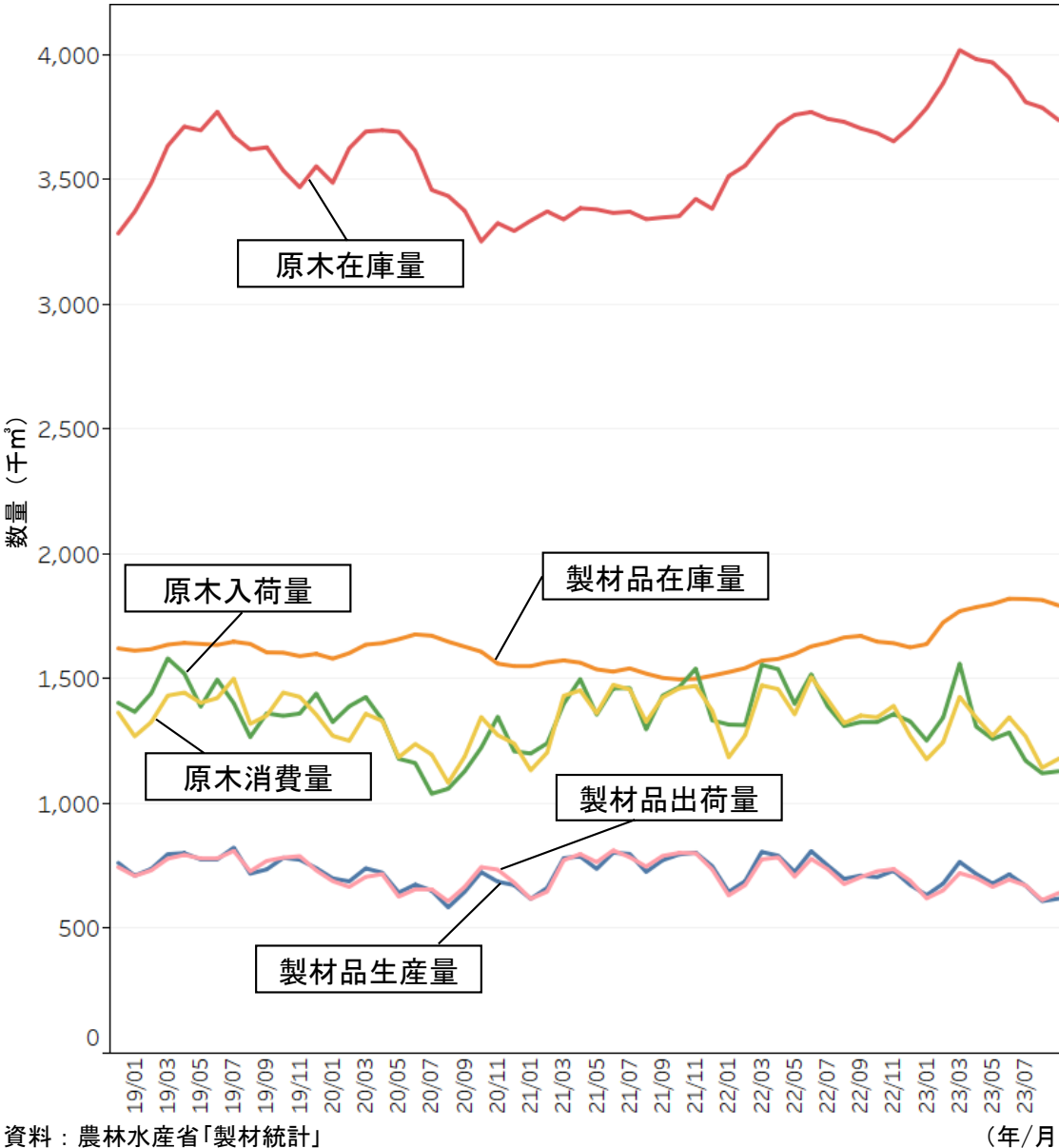


資料：①③④木材建材ウイクリー、①②日刊木材新聞

2 工場の原木等の入荷、製品の生産等の動向

(1) 製材 (全国)

- 2023年1～9月の原木の入荷量は11,427千m³ (2019年比89%)。
- 同様に製材品の出荷量は5,982千m³ (2019年比87%)。

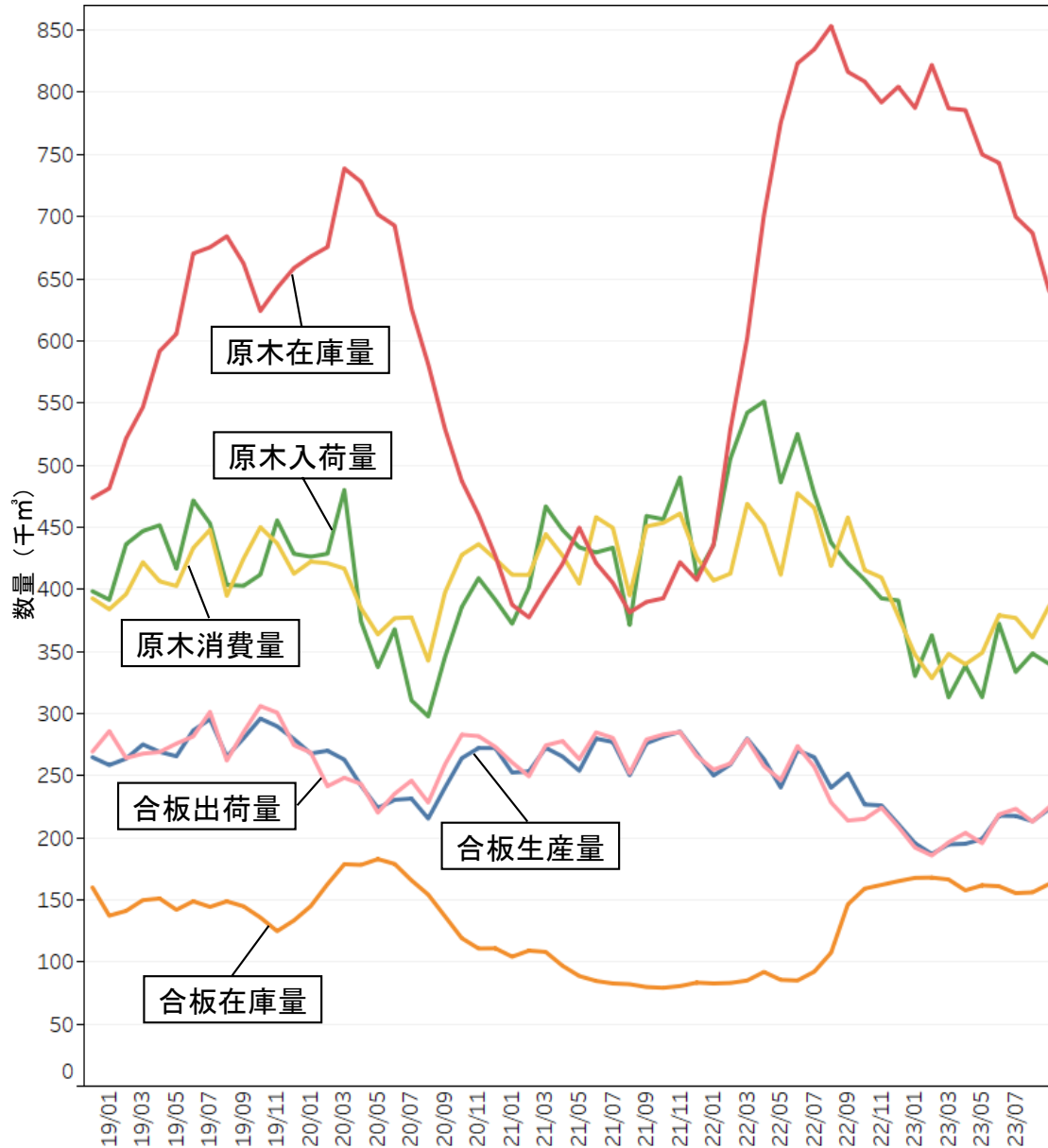


	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1～9月原木入荷量合計(千m ³)	12,318	12,823	11,045	12,346	12,664	11,427
2019年との比較*	96%	—	86%	96%	99%	89%
1～9月製材品出荷量合計(千m ³)	6,749	6,883	5,991	6,734	6,469	5,982
2019年との比較*	98%	—	87%	98%	94%	87%

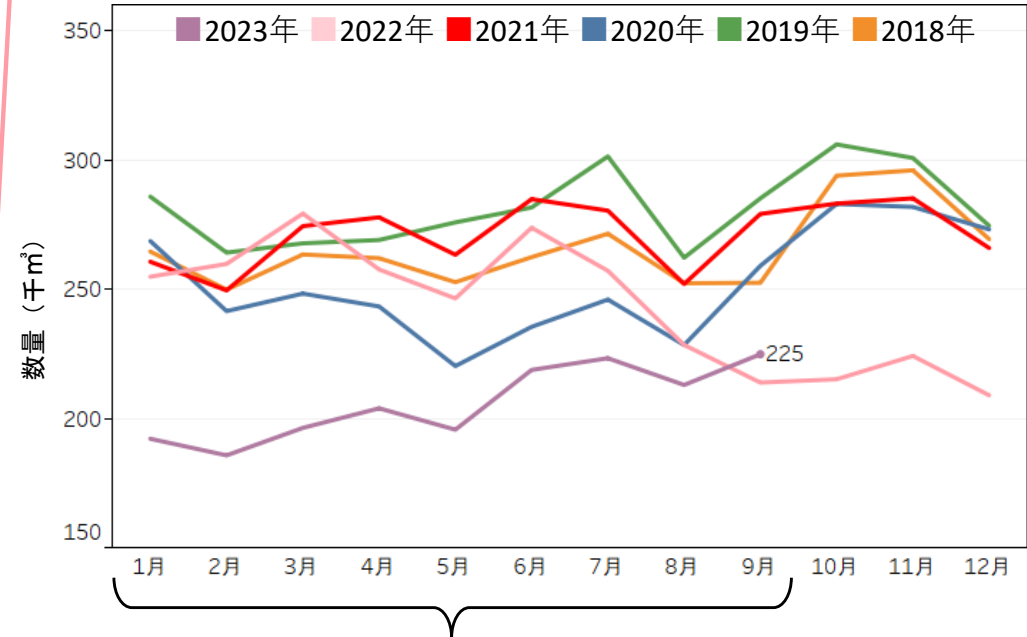
※コロナ禍前の2019年の数値を100%とした比較

(2) 合板 (全国)

- 2023年1～9月の原木の入荷量は3,052千m³ (2019年比79%)。
- 同様に合板の出荷量は1,853千m³ (2019年比74%)。



合板出荷量の月別推移 (全国)

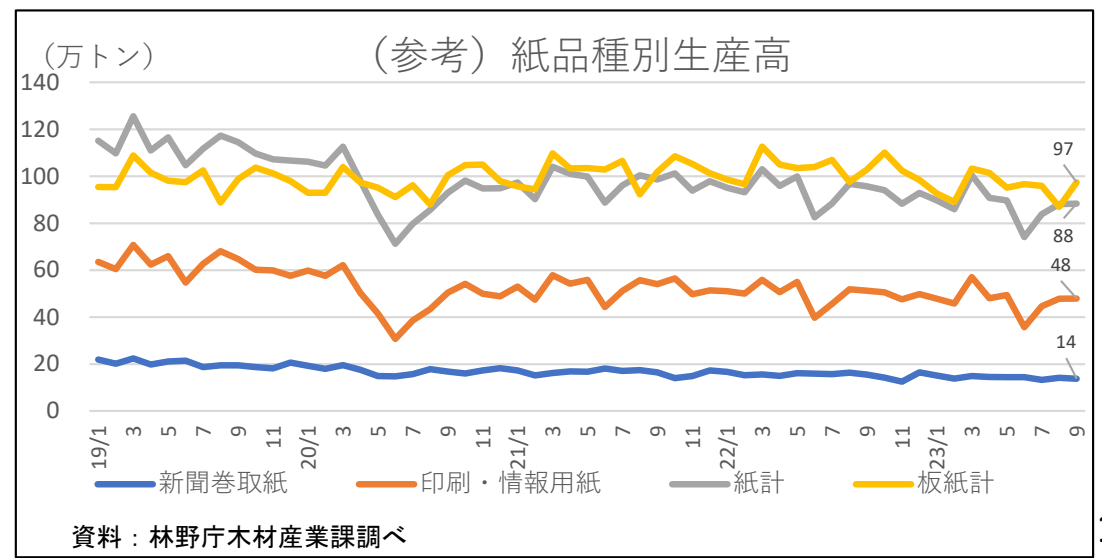
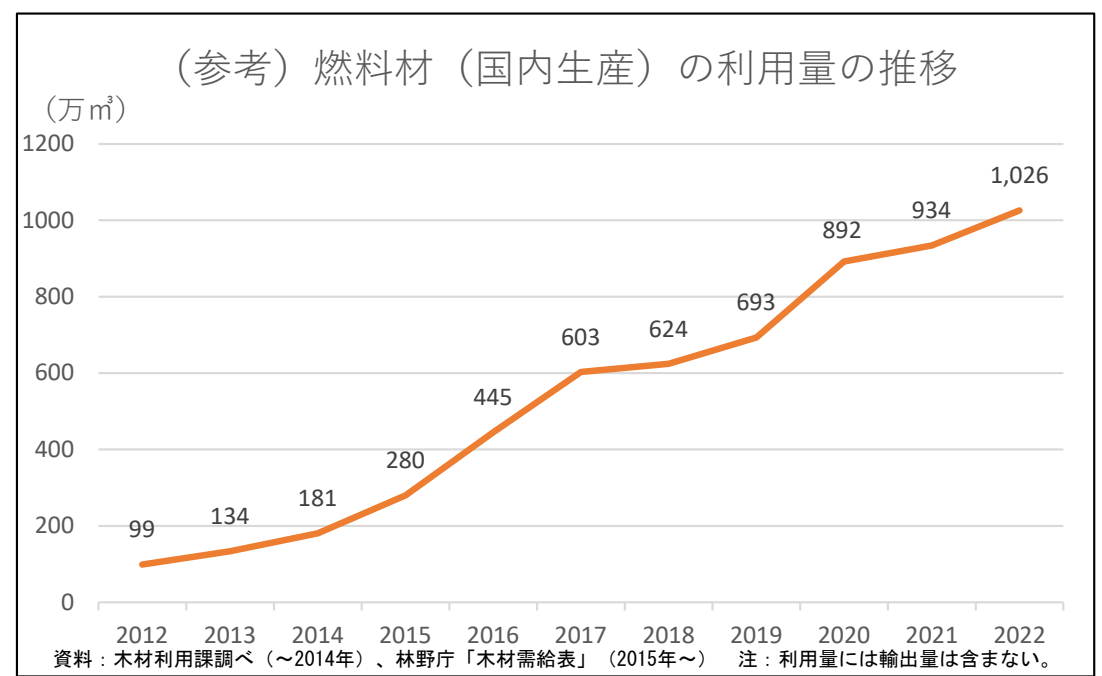
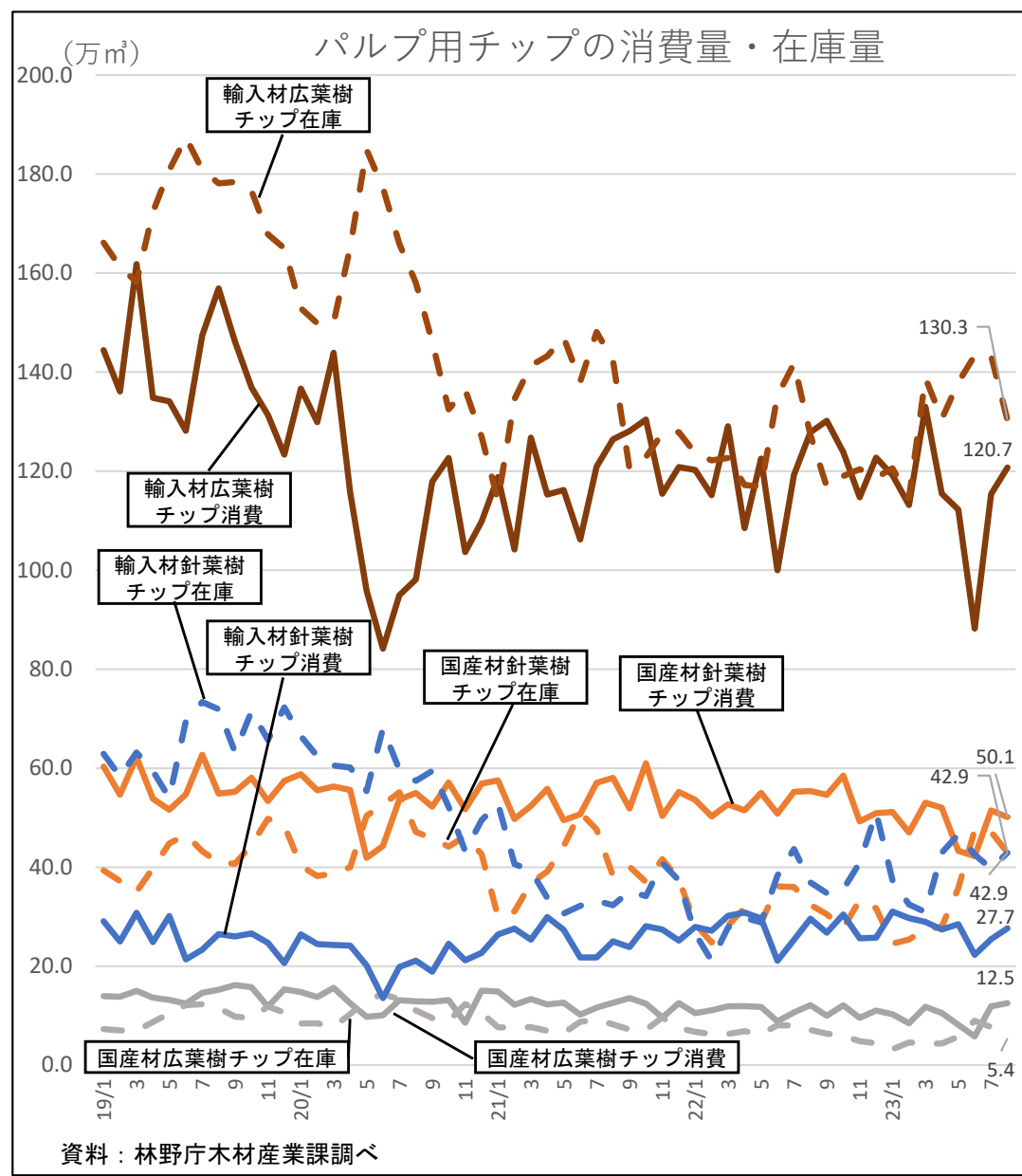


	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
1～9月原木入荷量合計(千m ³)	3,696	3,874	3,368	3,815	4,380	3,052
2019年との比較*	95%	—	87%	98%	113%	79%
1～9月合板出荷量合計(千m ³)	2,331	2,492	2,190	2,422	2,271	1,853
2019年との比較*	94%	—	88%	97%	91%	74%

※コロナ禍前の2019年の数値を100%とした比較

(3) チップ (全国)

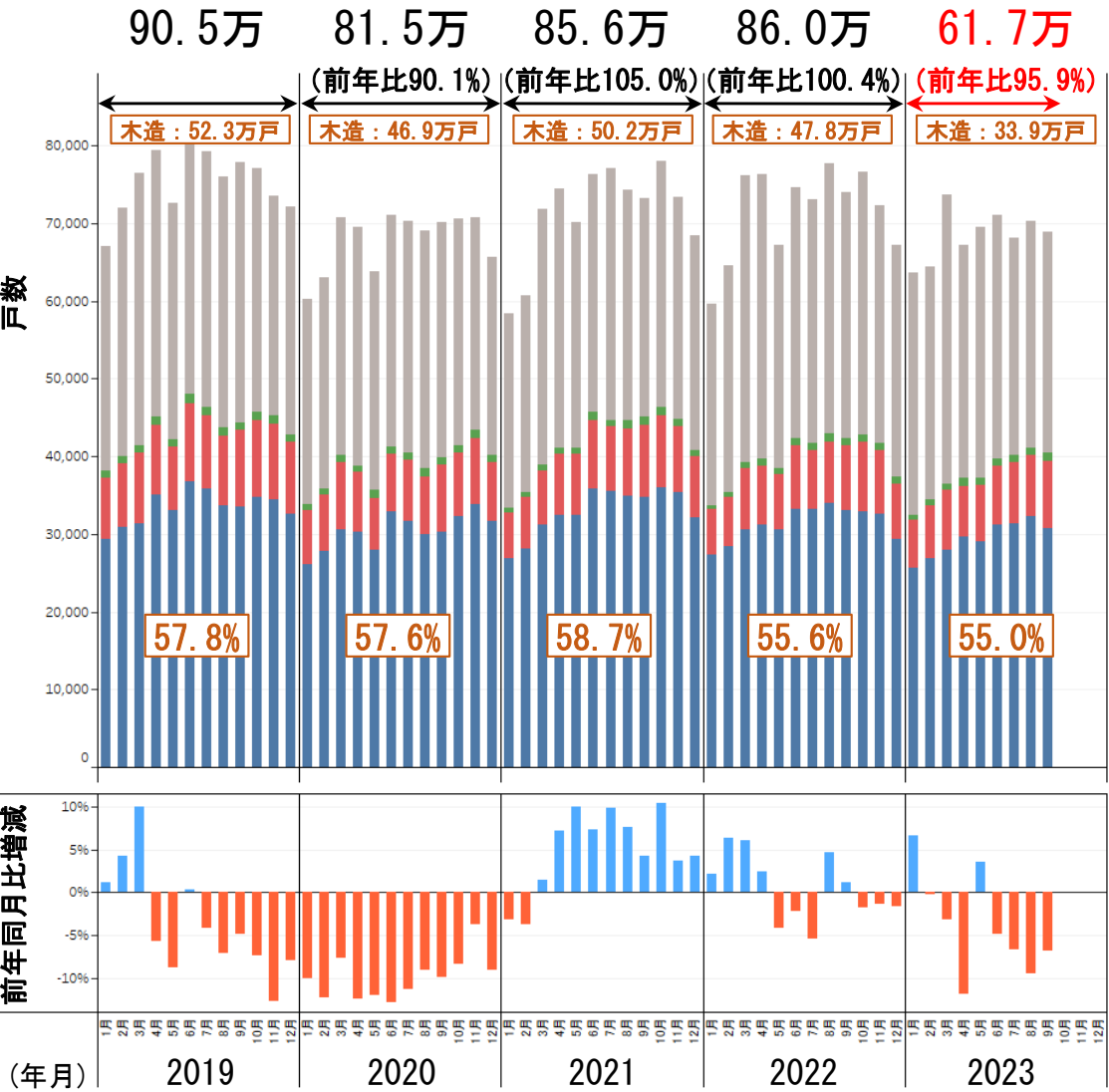
- パルプ用チップの消費について、2023年8月の輸入材広葉樹チップの消費量は120.7万 m^3 。国産材針葉樹チップの消費量は50.1万 m^3 となっている。
- 燃料材（国内生産）の利用量は、発電利用を中心に増加（過去10年間で約10倍）。



3 住宅着工戸数の動向 (2019年1月～2023年9月)

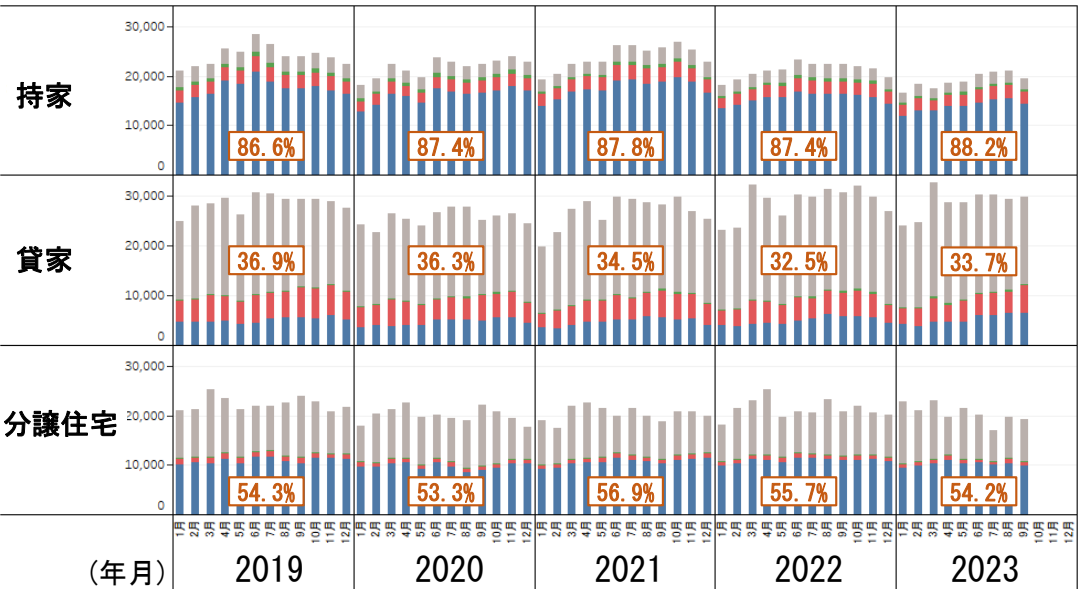
- 2022年の新設住宅着工戸数は、86.0万戸（前年比100.4%）、このうち木造住宅は47.8万戸（同95.1%）となり、2021年の水準を下回った。
- 2023年1～9月の新設住宅着工戸数は、61.7万戸（前年同期比95.9%）、このうち木造住宅は33.9万戸（同95.4%）。

新設住宅着工戸数の推移



構造別の着工戸数	2023年 1～9月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	617,030	643,318	95.9%	636,673	96.9%
■非木造	277,638	287,413	96.6%	266,483	104.2%
木造	339,392	355,905	95.4%	370,190	91.7%
■木造プレハブ	7,869	7,336	107.3%	7,641	103.0%
■2×4	66,630	67,004	99.4%	70,312	94.8%
■在来軸組	264,893	281,565	94.1%	292,237	90.6%
□木造率	55.0%	55.3%		58.1%	

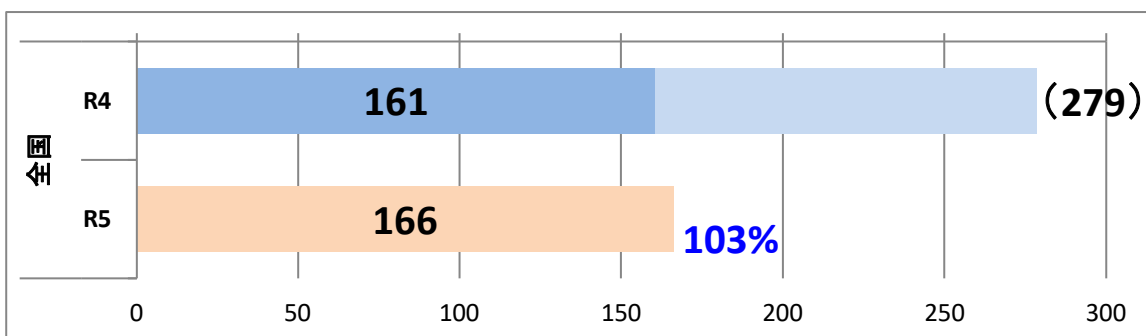
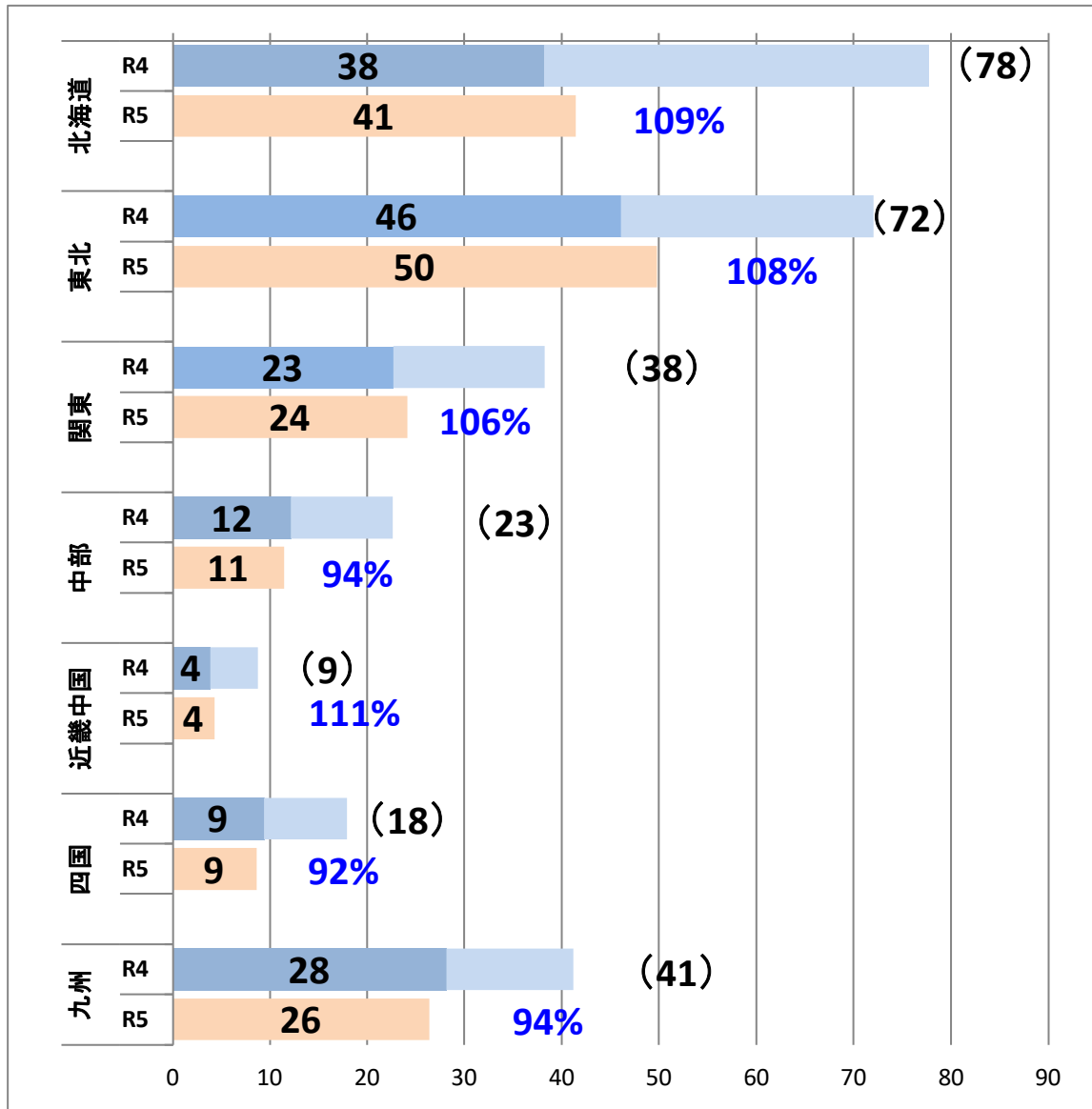
(参考) 利用関係別の着工戸数 (ただし、「給与住宅」を除く。)



資料：国土交通省「住宅着工統計」

国有林材の販売状況(10月末時点)

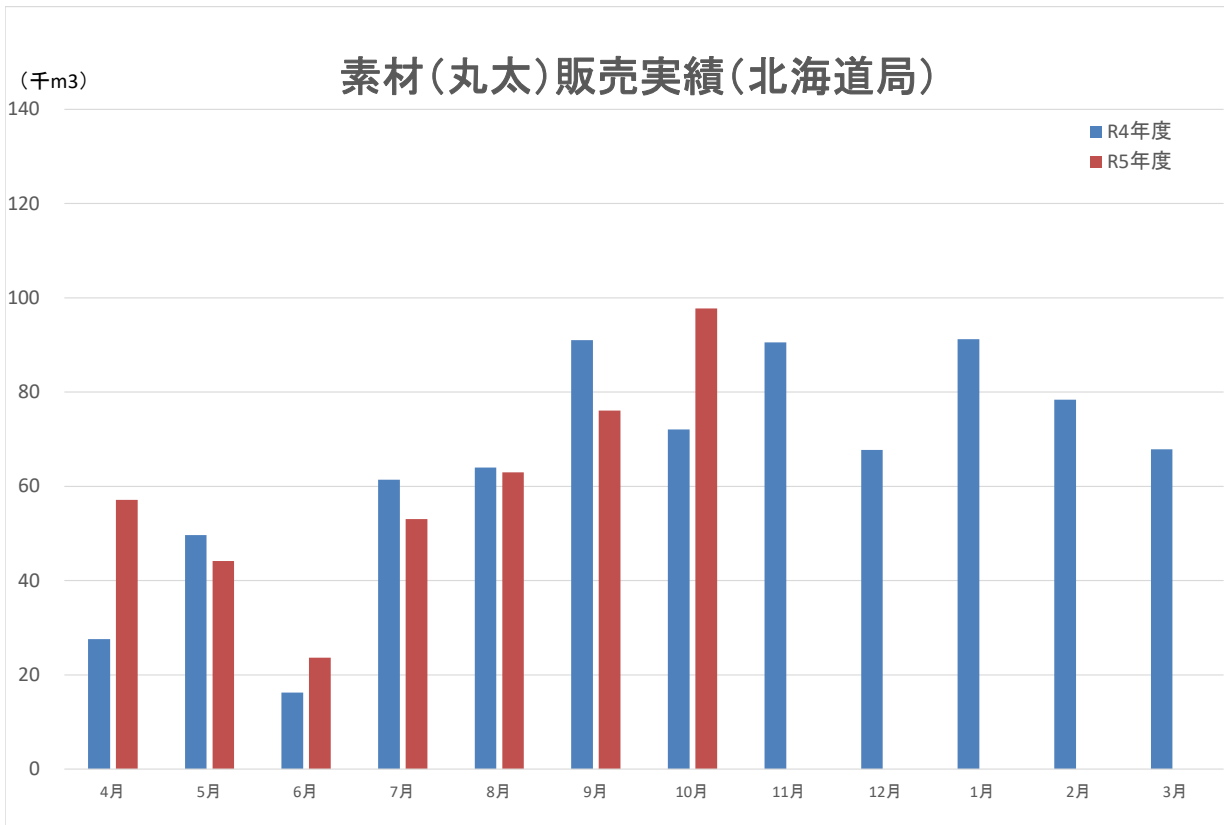
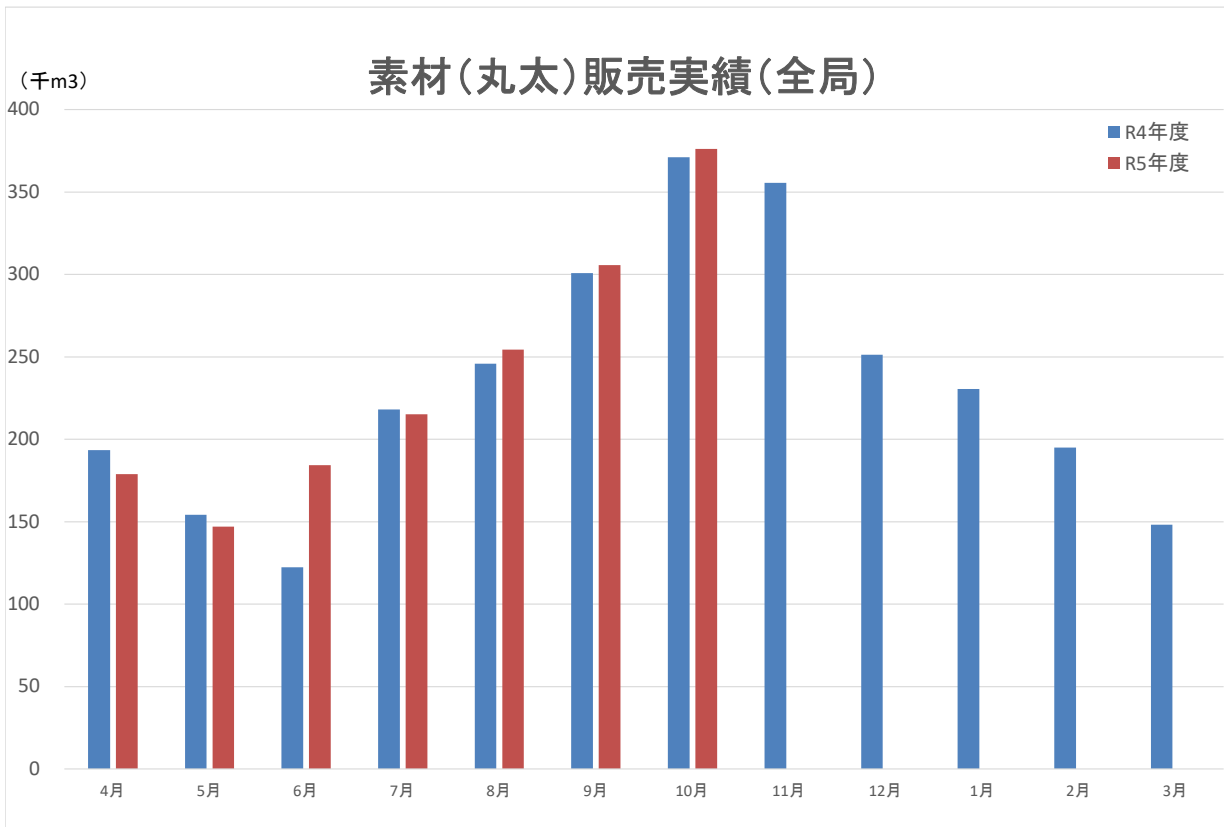
【素材(丸太)販売】

(万m³)

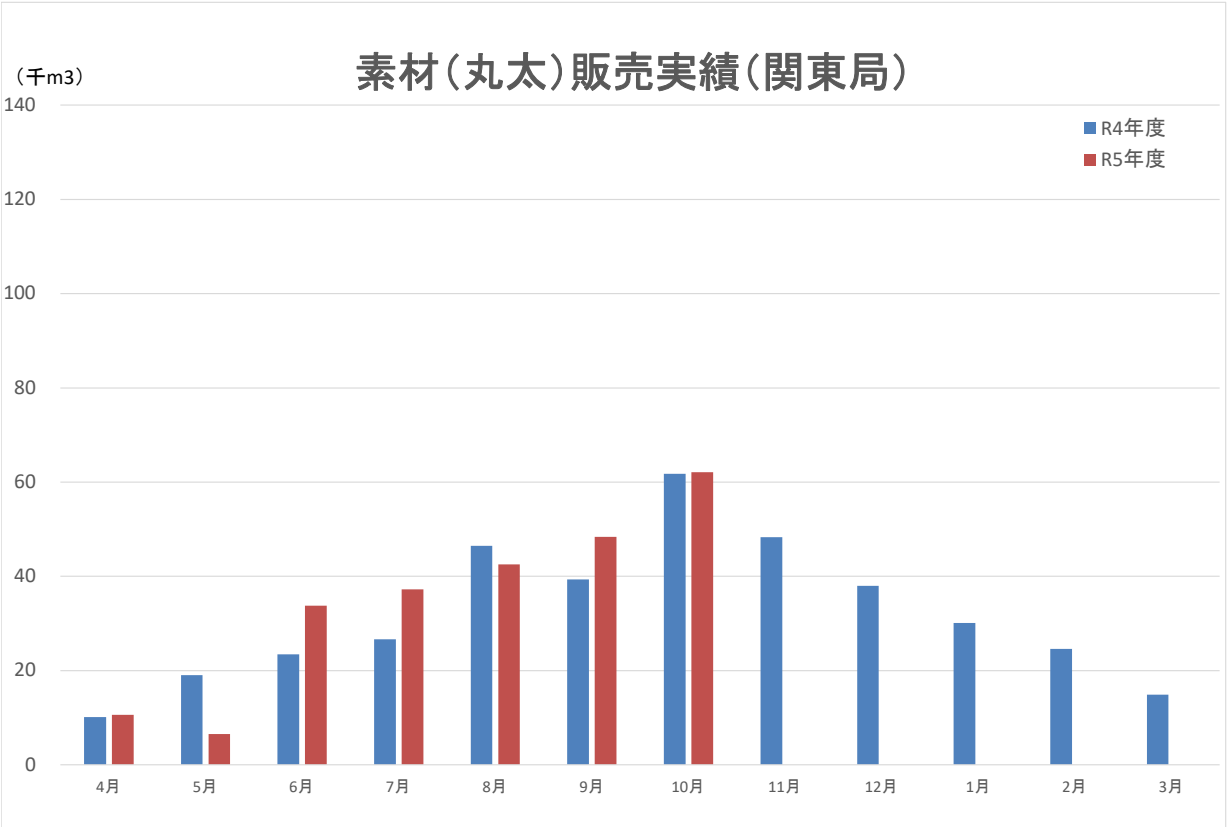
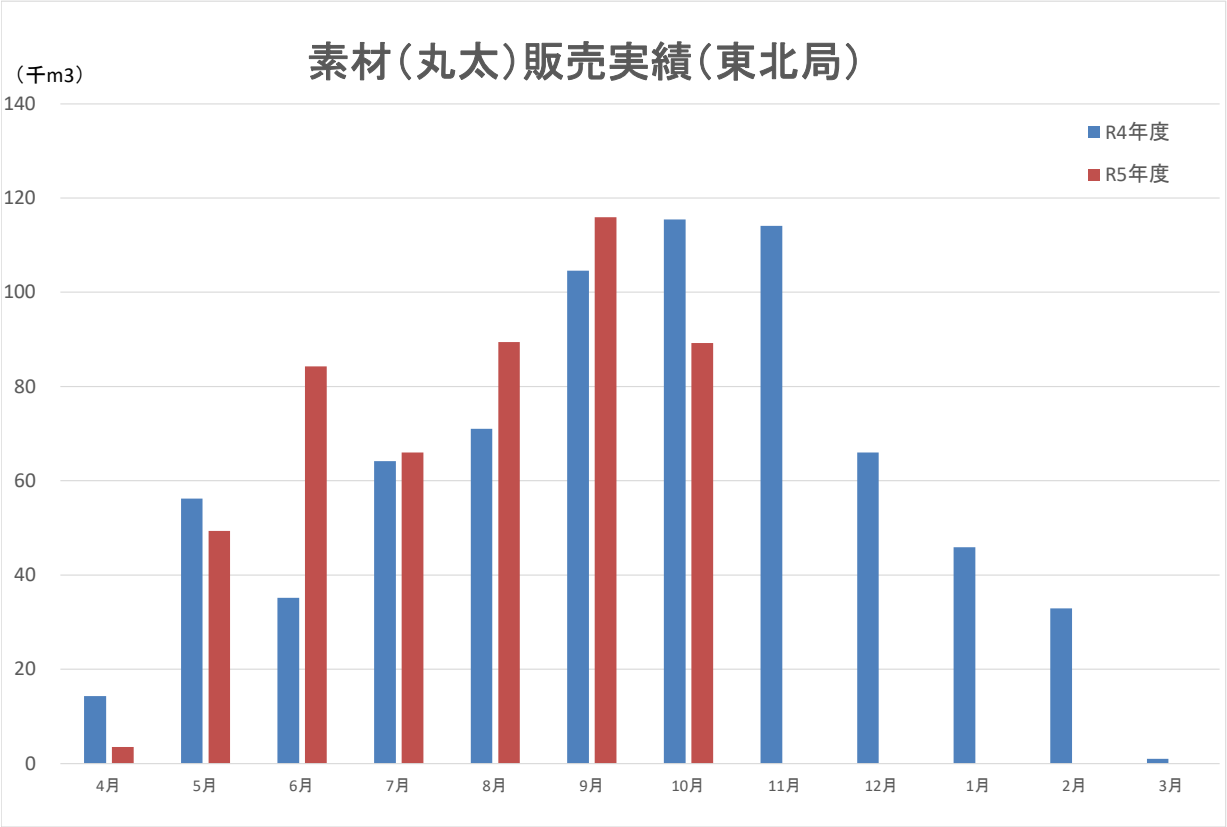
※()内の数値はR4年度の年間販売量

※青数字は10月末時点での販売量の前年比

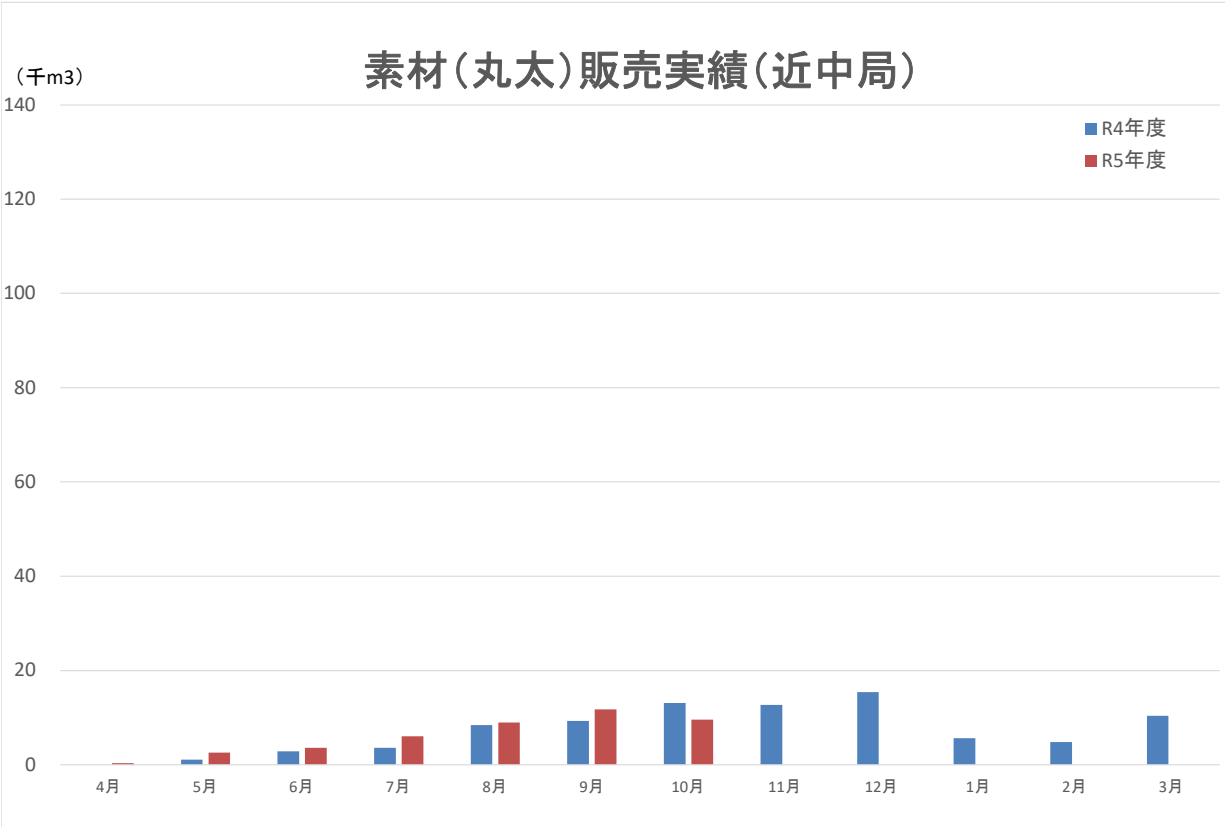
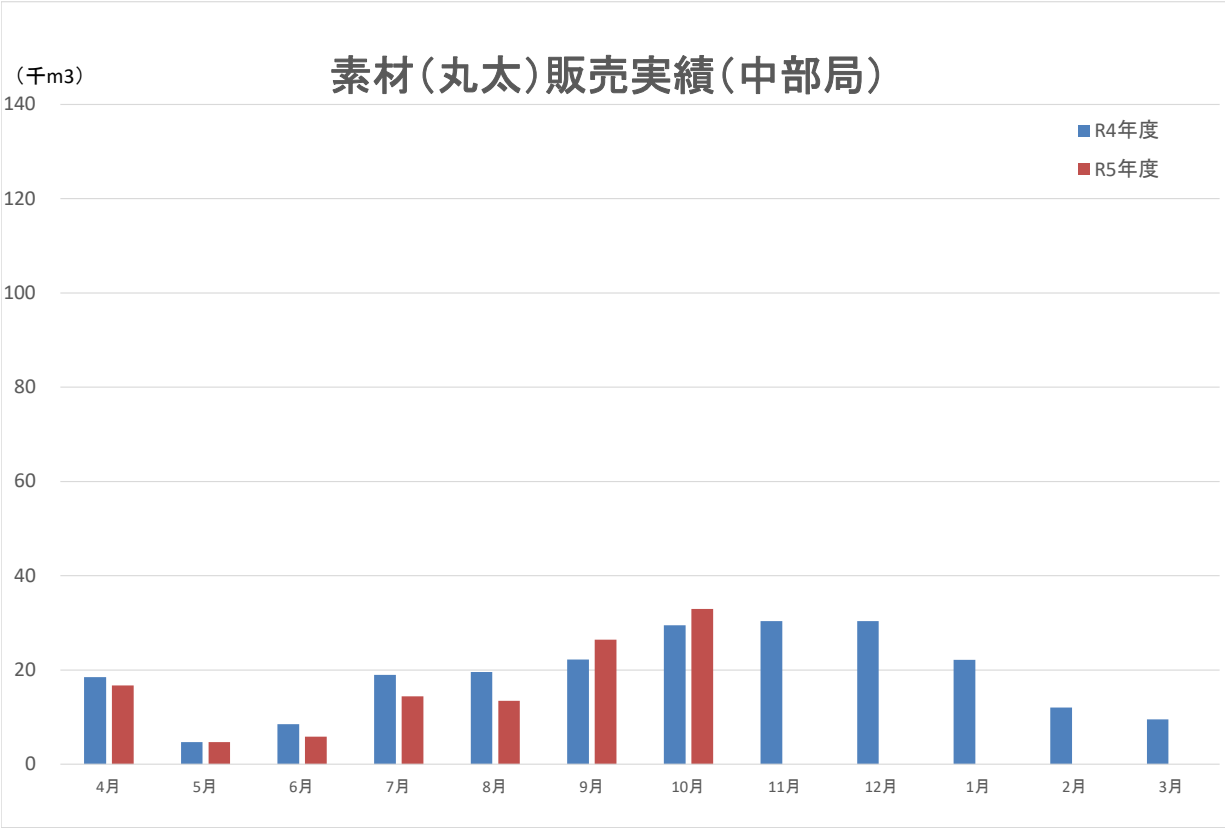
全局及び各局の月ごとの素材(丸太)販売実績(1/4)



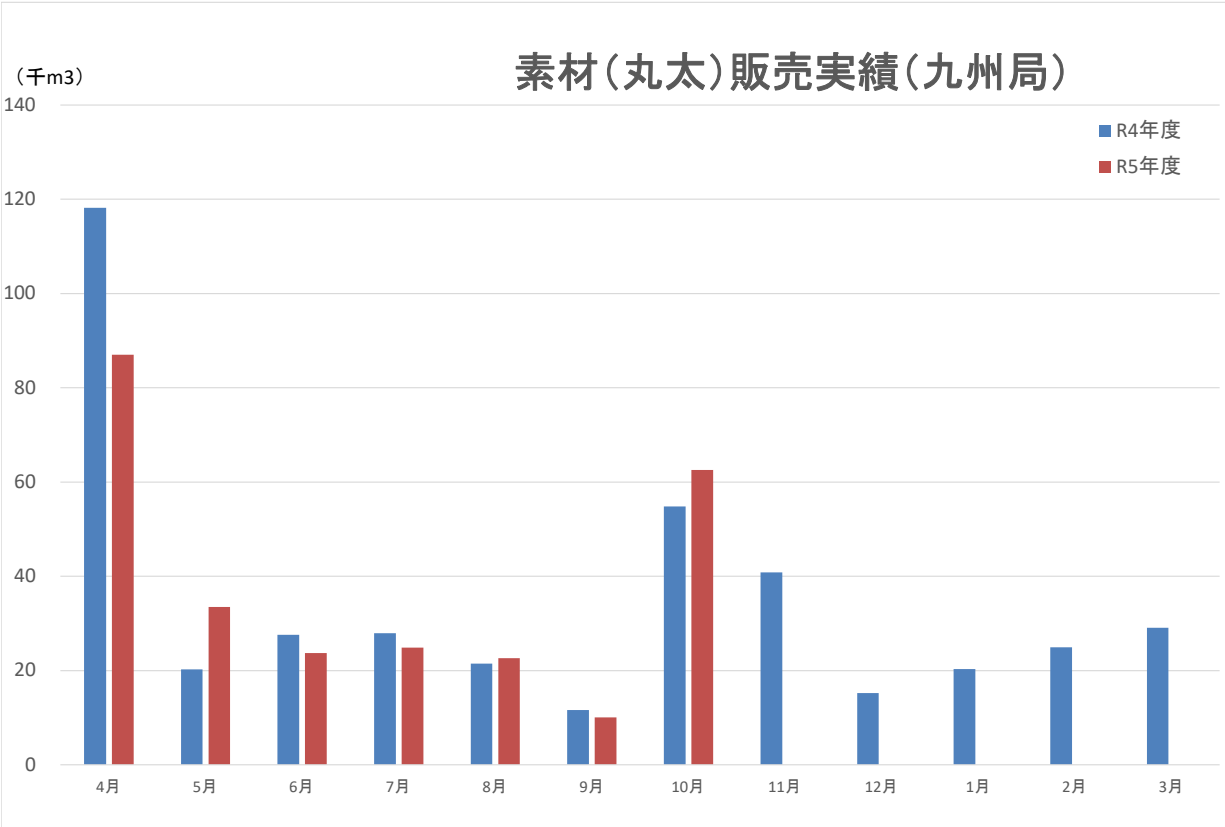
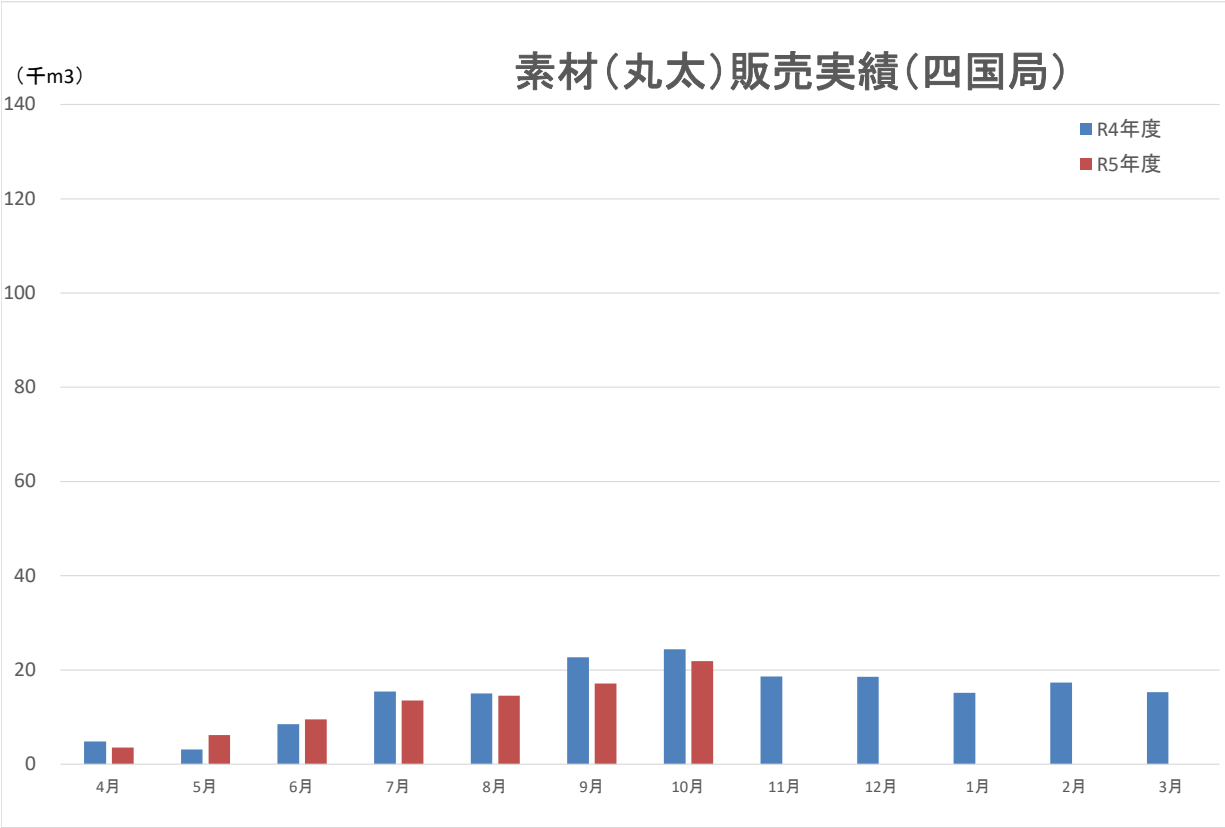
全局及び各局の月ごとの素材(丸太)販売実績(2/4)



全局及び各局の月ごとの素材(丸太)販売実績(3/4)



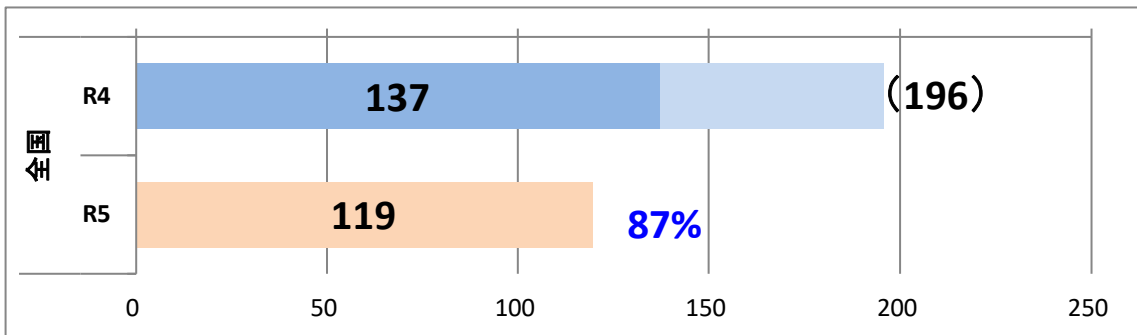
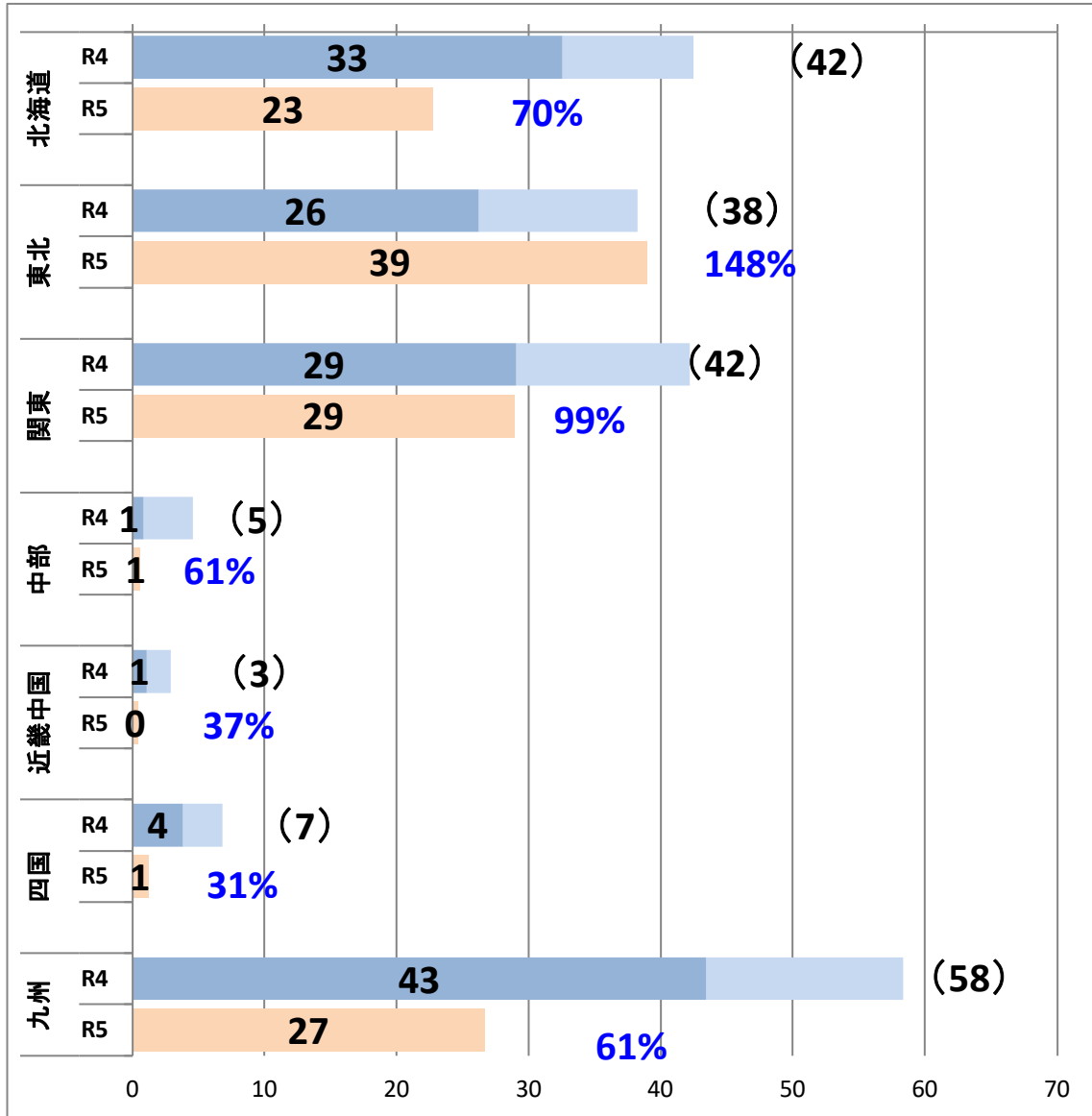
全局及び各局の月ごとの素材(丸太)販売実績(4/4)



令和5年度国有林材の販売状況(10月末時点)

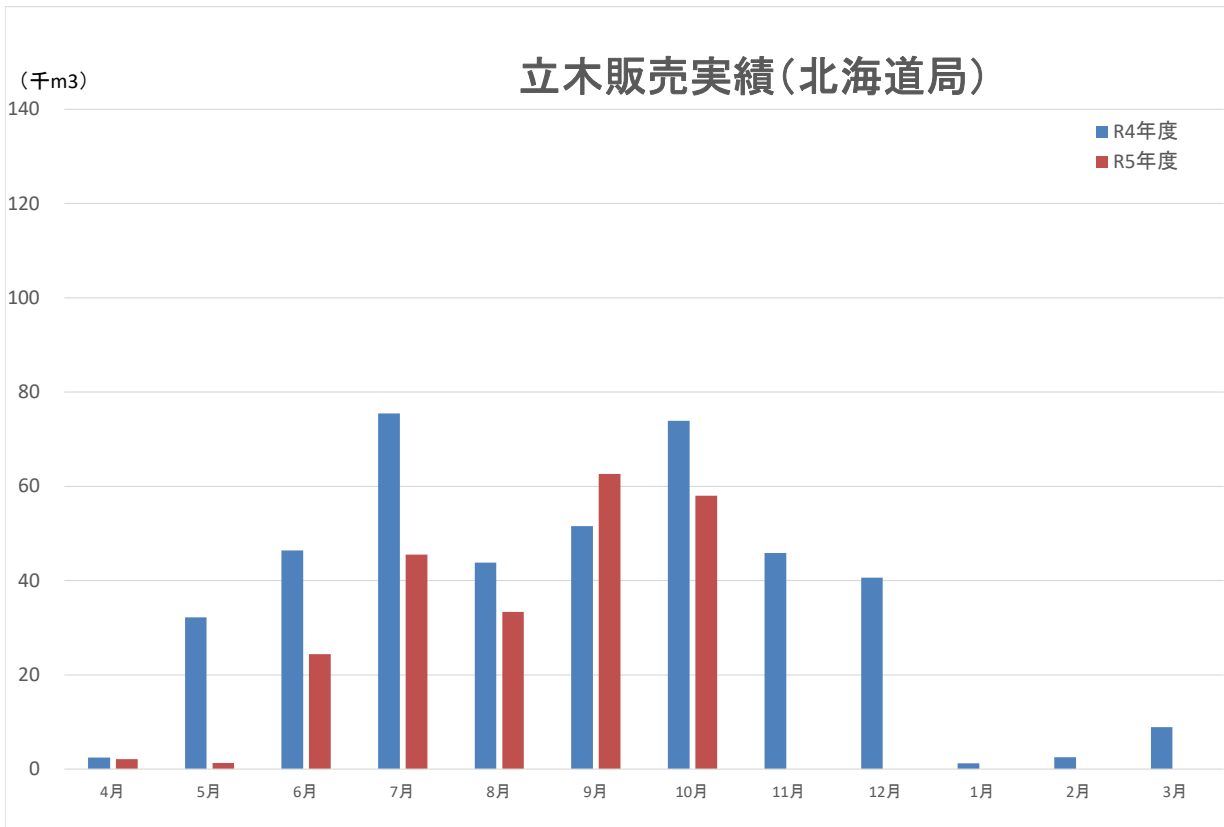
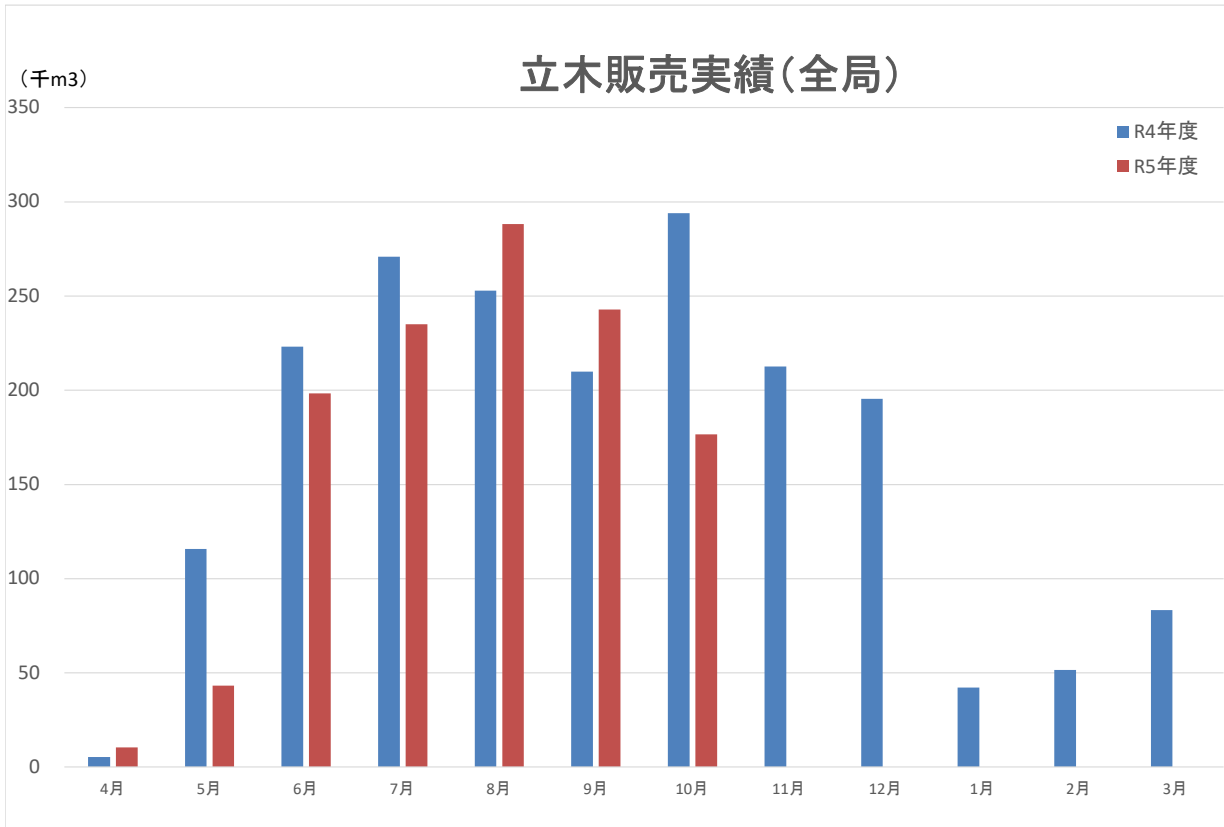
【立木販売】

(万m³)

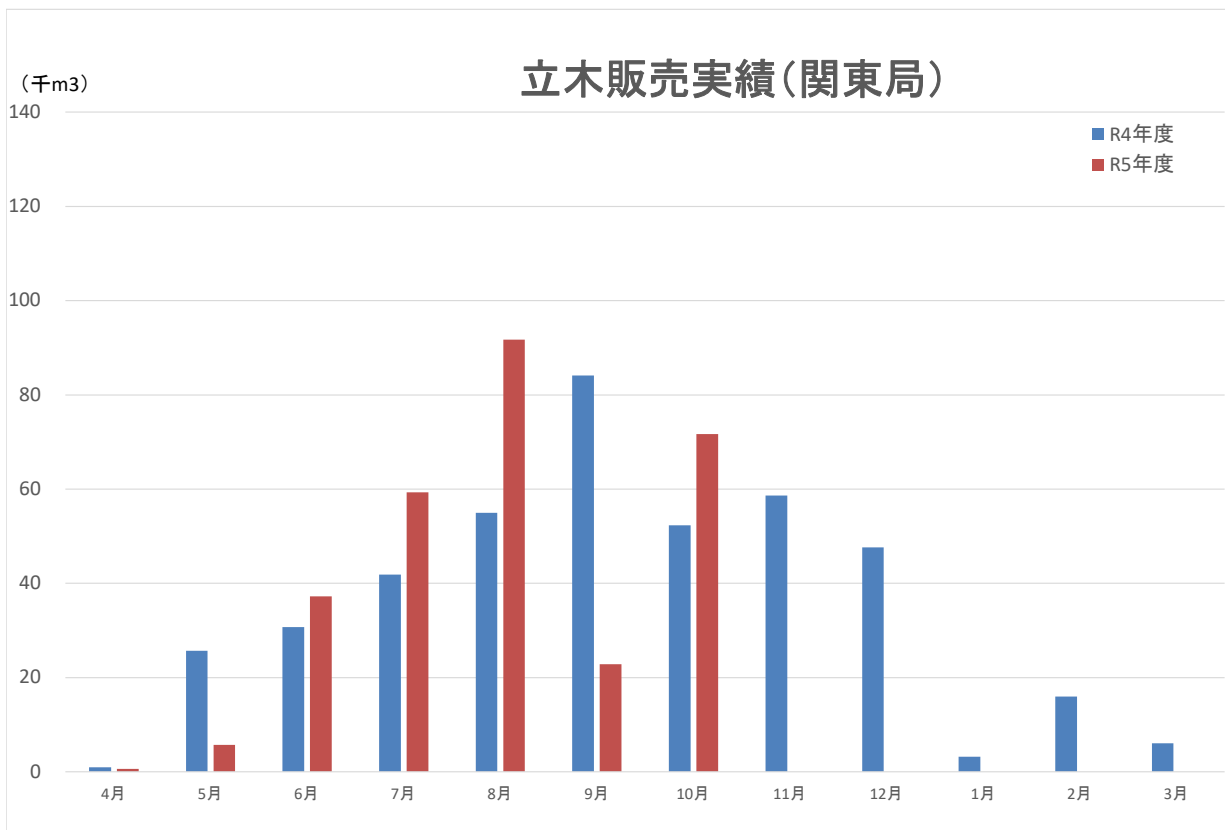
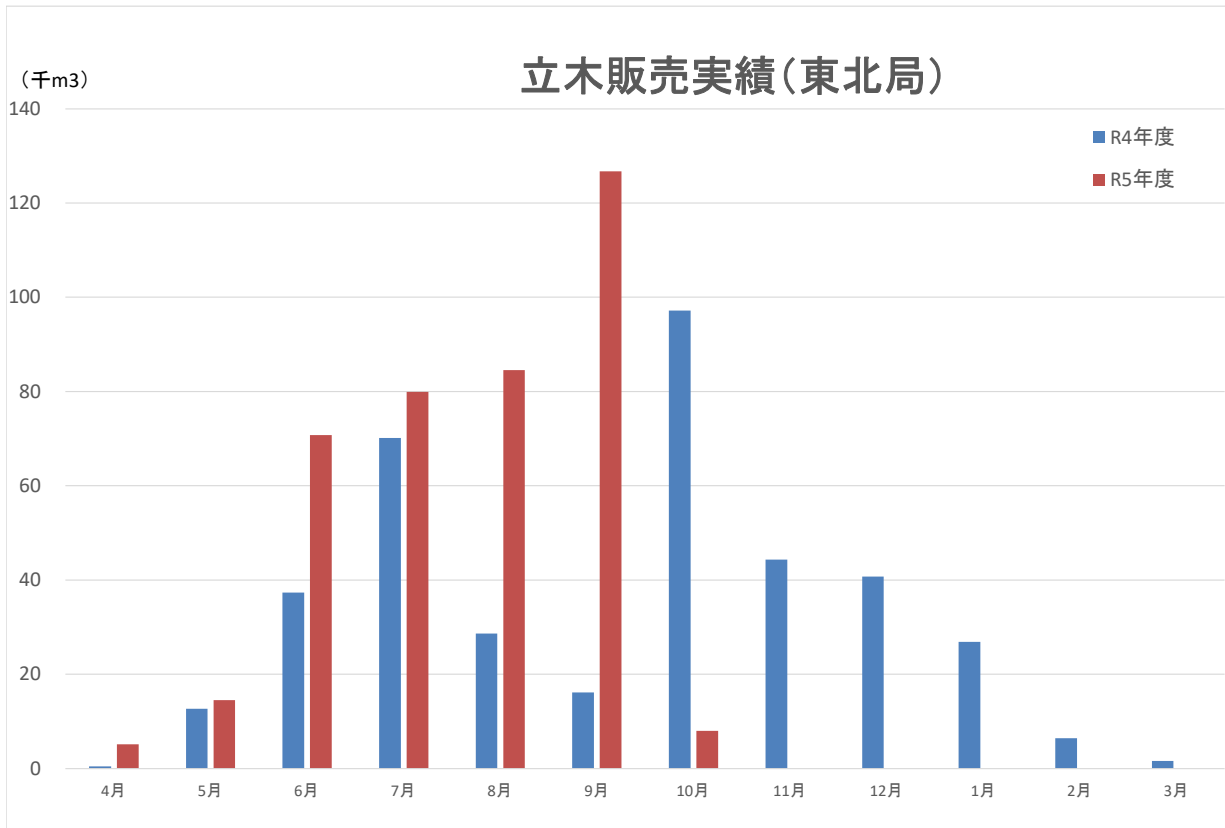


※()内の数値はR4年度の年間販売量
 ※青数字は10月末時点での販売量の前年比

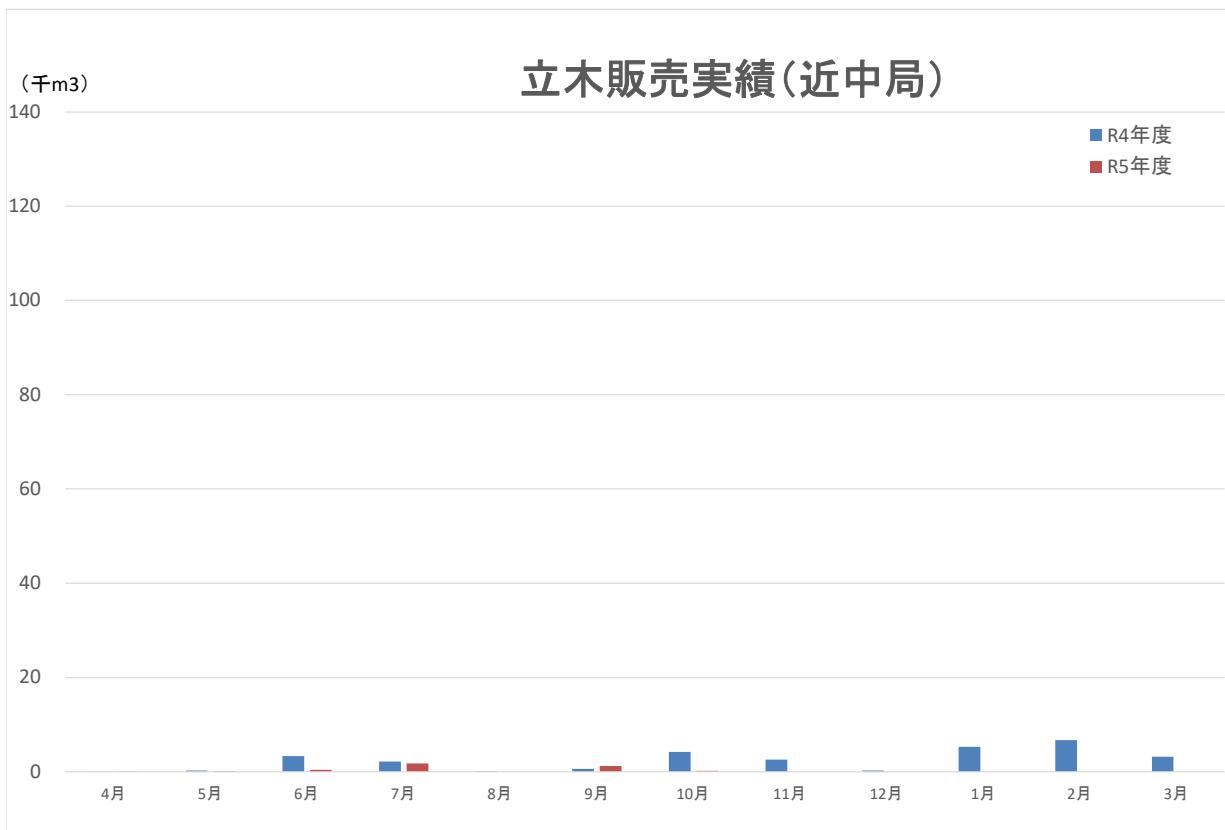
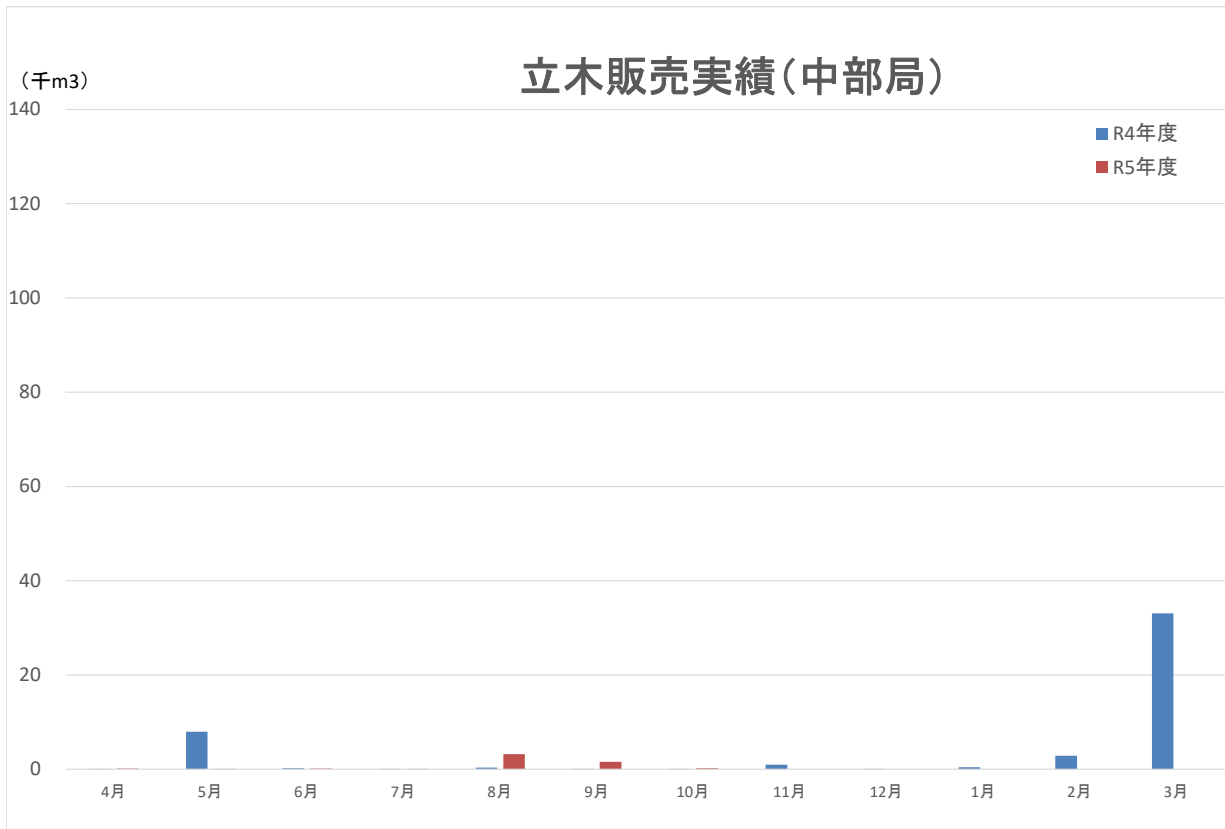
全局及び各局の月ごとの立木販売実績(1/4)



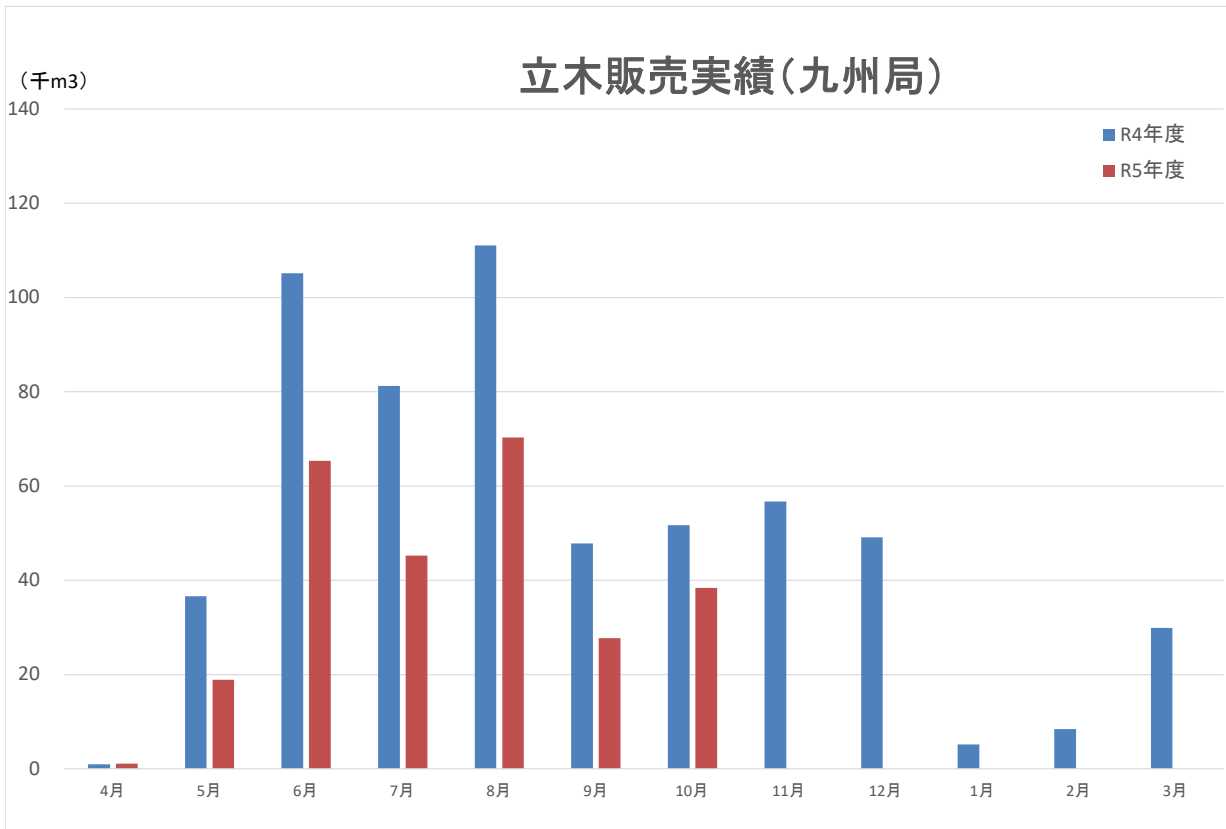
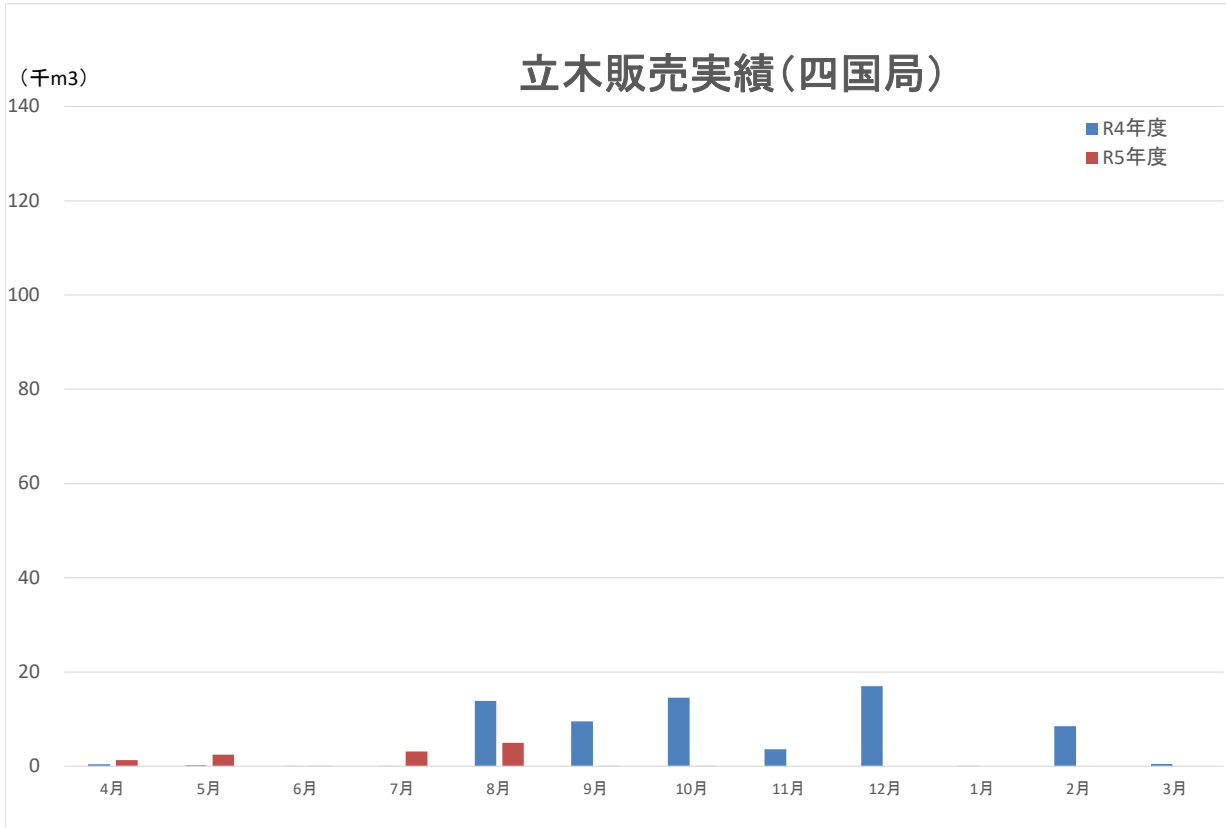
全局及び各局の月ごとの立木販売実績(2/4)



全局及び各局の月ごとの立木販売実績(3/4)



全局及び各局の月ごとの立木販売実績(4/4)



令和5年度 各森林管理局の国有林材供給調整検討委員会の検討結果について

北海道森林管理局

1. 今年度の供給調整検討委員会の検討結果

委員会開催日	検討結果
令和5年6月19日	道内では一般材、合板材ともに原木価格が弱含んでおり、材の動きも鈍いが、原材料については、価格が上昇しており、供給不足の声も聞かれる。以上のことから、国有林材の供給調整を行う必要性はないが、一般材の価格が下落し、未だ木材需要の先行き不透明感があることを考慮し、国有林においては、引き続き安定的な原木供給に努め、今後の動向等についてしっかり注視していくこととする。
令和5年9月6日	木材製品の引き合いは鈍く、カラマツ、トドマツとも消費量が減り、原木の受入調整等の対応もみられる。その一方で原材料は不足傾向が続き、高値が続いている。こうした状況に対して、引き続き生産した素材及び立木を基本的には計画的に販売しつつ、関係業界等からの情報収集を行い、情勢に注視し、地域の状況に応じて柔軟に対応していくこととする。

2. 直近の供給調整検討委員会における主な意見

令和5年度第2回国有林材供給調整検討委員会(令和5年9月6日)

検討結果「供給調整の必要なし。ただし、今後の動向等を注視し、必要に応じて地域の状況に則して機動的に対応策が打てるよう検討していくことが重要である。」

【素材生産等】

- ・事業はおおむね順調に進んでいるが、工場の在庫や原木受け入れ動向を見ながら動かざるを得ない。

【原木市場等】

- ・カラマツは比較的健闘しているが、仕入れ調整が継続しており、トドマツ・カラマツとも原木価格は弱含みが続いている。

【製材工場等】

トドマツ製材については回復がみられず、出荷量が昨年から半減、原料消費は6割程度で生産調整してる。価格下げ圧力が強いが、下げても荷動きは変わらないことから、価格を下げないよう対応している。

- ・カラマツについて、産業用資材については、先行きの見通しが立たない状況が長期に続いている。製材用も在庫が積み増しとなっている。

- ・チップ工場は原料が足りない状況が継続している。

【プレカット、住宅着工等】

- ・建築関係では小規模な非住宅物件が出てきているが、楽観視できる状況にはない。

令和5年度 各森林管理局の国有林材供給調整検討委員会の検討結果について

東北森林管理局

1. 今年度の供給調整検討委員会の検討結果

委員会開催日	検討結果
令和5年6月15日	合板・集成材・LVL工場において原木の受入が制限されており、原木価格も下がっている。こうしたことから、原木の市況動向を受け、今後出材量が大幅に減少すると予想される。以上のことから、国有林においては、引き続き管内の市況や需給動向を注視し、必要に応じて原木及び立木の供給調整を柔軟に行うことができる体制を維持していくこととする。
令和4年9月28日	木材需要は低迷を続けており、合板・集成材・LVL工場における生産調整・入荷制限が続いていることもあり、原木価格は低水準で推移している。製材用の需要も少なく、地域差はあるが伐採量は減少している。こうしたことから、国有林においては現時点での供給調整の必要性はないが、引き続き管内の市況や需給動向を注視し、新たに集荷を始める大型工場の影響も把握しつつ、必要に応じて原木及び立木の供給調整を柔軟に行うことができる体制を維持していくこととする。

2. 直近の供給調整検討委員会における主な意見

令和5年度第2回国有林材供給調整検討委員会(令和5年9月28日)

検討結果「供給調整の必要なし。ただし、原木及び製品の価格と需給動向を注視し、必要に応じて原木及び立木の供給調整を柔軟に行うことができる体制を維持していくこととする。」

<p>【素材生産等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品需要の停滞によって素材生産側での原木の動きも鈍化している。 <p>【原木市場等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合板工場やLVL工場での受け入れ調整が続き、全般的に弱気配である中、相場が上向くような情報は乏しく、原木納入に関しては今後も厳しい状況が続くと推測される。 <p>【製材工場等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製材及び合板の各メーカーは2～3割の減産状態にあり、原木価格は今が底値と思われる。製品については値を下げても物が動かない状況にある。集成材製品価格も弱含んでおり、原木価格もラミナも続落している。 ・製紙・燃料用については不足感はあるが、価格に大きな変動はなく、価格は今後も現状維持と思われる。 <p>【プレカット、住宅着工等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅着工のみならず、床面積も減少し、需要が低迷しており、秋需期を迎えても目立った動きはない。非住宅関連の問い合わせについては増加している。

令和5年度 各森林管理局の国有林材供給調整検討委員会の検討結果について

関東森林管理局

1. 今年度の供給調整検討委員会の検討結果

委員会開催日	検討結果
令和5年7月5日	国産材製品の荷動きは悪く、製材・合板工場では減産や原木の受け入れ制限が継続している等から、原木の荷動きは鈍化し、価格も低下している。今後の需要・価格動向も不透明である。現時点では国有林材の供給調整を行う必要はないが、当面の間、現在の取組を継続するとともに、引き続き、関係業界等からの情報収集を行い情勢を注視して、供給調整が必要となった場合には、地域の実情に即して機動的に対応策が打てるよう、検討することとする。
令和5年9月28日	木材価格低迷が続いたこと等から、原木の入荷が減少した一方、在庫調整により製材工場の原木在庫が少なくなったことから、地域差はあるものの、製材用原木の引き合いは強くなり、原木価格は底打ちから上昇傾向にある。しかしながら国産材製品の荷動きは依然として低調であり、住宅需要の停滞等により先行きの不透明感は強い。国有林においては、直ちに供給調整を行う必要はないが、各地域の状況を踏まえた的確な供給に取り組むとともに、供給調整が必要となった場合に備え、地域の実情に即して機動的に対応策が打てるよう引き続き検討することとする。

2. 直近の供給調整検討委員会における主な意見

令和5年度第2回国有林材供給調整検討委員会(令和5年9月28日)

検討結果「現時点では国有林材の供給調整は不要。ただし、各地域の状況を踏まえた的確な供給に取り組むとともに、供給調整が必要となった場合に備え、地域の実情に即して機動的に対応策が打てるよう引き続き検討することとする。」

<p>【素材生産等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原木の荷動きはよくなっており、価格も上昇傾向にある。 ・天候不順や市況価格低迷の影響で、民有林の出材が非常に少ない傾向。10月以降は価格上昇や間伐から主伐への移行もあり出材量の増加が見込まれる。 <p>【原木市場等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原木の入荷量が少なく、製材工場の原木の手持ち在庫が不足してきたことから、引き合いが強くなっている中で価格が上昇してきている。 <p>【製材工場等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合板工場では、減産を継続し原木、製品の価格維持に努めている。製材工場では、製品の荷動きは依然として低調であるが、輸入材の在庫整理が進み国産材製品の荷動きは徐々に好転してきているとの意見もある。地域によっては一部の製材品の需要が旺盛で生産能力が追い付かないという話もある。 <p>【プレカット、住宅着工等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行きは不透明

令和5年度 各森林管理局の国有林材供給調整検討委員会の検討結果について

中部森林管理局

1. 今年度の供給調整検討委員会の検討結果

委員会開催日	検討結果
令和5年6月16日	管内の原木価格は全国の動きと同様に下落基調となっているものの、全体的には踏みとどまっている状況がうかがえ、ウッドショック以前の水準よりは高めとなっている。ただし、国際情勢が不安定なことなどもあり、先行き不透明な状況は続いている。こうした状況を見据え、管内の市況の安定化に向け、国有林では本年度に計画している製品生産事業を着実に実行し、市場等への速やかな木材の供給を行うこととする。
令和5年9月27日	原木価格は下落基調にあるものの、全体的にはウッドショック以前と比べて高値で踏みとどまっている。こうしたことから、引き続き地域の木材需要動向を注視し、木材需給に関する情報収集を継続しつつ、計画している製品生産事業を着実に実行し、市場等への速やかな木材の供給を行うこととする。

2. 直近の供給調整検討委員会における主な意見

令和5年度第2回国有林材供給調整検討委員会(令和5年9月27日)

検討結果「引き続き計画している製品生産事業を着実に実行し、市場等への速やかな木材の供給を行うことにより、管内の市況の安定化を図ることが重要と考える。そのため、現時点において、直ちに供給調整の必要性はないと判断する。」

<p>【素材生産等】</p> <ul style="list-style-type: none">・岐阜県では例年に比べて生産量が減少傾向にある。
<p>【原木市場等】</p> <ul style="list-style-type: none">・秋口に入っても各工場の減産体制がなかなか解消せず、原木価格は微増ながらも厳しい状況が続いており、一部地域では出材が若干弱い状況となっている。
<p>【製材工場等】</p> <ul style="list-style-type: none">・岐阜県の製材工場では製品在庫の調整はされておらず、大手工場では4月から9月にかけて減産し、納材制限も実施してきた。10月以降製材量を増やすという話もあるが、製品販売の動向が不調な中でバランスをとるのが難しいと思われる。・合板業界全体が減産しており、製品の在庫量は落ち着いているようだが、需要が思わしくなく、今後も減産が継続するものと思われる。
<p>【プレカット、住宅着工等】</p> <ul style="list-style-type: none">・住宅需要が減っているが、非住宅分野については伸びてきていると感じる。

令和5年度 各森林管理局の国有林材供給調整検討委員会の検討結果について

近畿中国森林管理局

1. 今年度の供給調整検討委員会の検討結果

委員会開催日	検討結果
令和5年6月2日	合板工場の減産が継続しており、製材工場も材の傷みを嫌って仕入れが鈍っていることなどから木材需要については落ち込んでいるものの、輸入木材の市中在庫の適正化が進み始めるという見方もあることから、国有林においては地域における需給動向等の情報収集・分析を行いながら、素材生産事業の計画的な実施による安定供給に取り組むとともに、立木販売においても引き続き購入意欲向上に向けた搬出条件の整備を行いつつ、計画的に販売を進めることとする。
令和5年9月11日	木材需要の落ち込みは続いているものの、底打ち感が出始めていることから、地域での樹種や用途等の需要動向、民有林材の出材状況、木材の輸出入状況、住宅着工戸数等について注視し、国有林においては、地域における需給動向等の情報収集・分析を行いながら、素材生産事業の計画的な実施による木材の安定供給に取り組むとともに、立木販売においても引き続き購入意欲向上に向けた搬出条件の整備を行いつつ、気候変動等による各事業地の安全性に十分配慮して計画的に販売を進める。

2. 直近の供給調整検討委員会における主な意見

令和5年度第2回国有林材供給調整検討委員会（令和5年9月11日）

検討結果「供給調整の必要なし。ただし、地域での樹種や用途等の需要動向、民有林材の出材状況、木材の輸出入状況、住宅着工戸数等について注視していく必要がある」

<p>【素材生産等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当面ABC材の需要が見込めないため、素材生産業者はD材需要に頼らなければならない状況にあり、スギの半分以上が燃料材となっている。 <p>【原木市場等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県内では、8月には丸太の入荷量が少なく、市が開催できない時期もあったが、スギ、ヒノキともに製材品が売れないので買い控えの状態となっており、原木価格も徐々に低下していた。 ・奈良県内の原木市場では、スギ・ヒノキ丸太ともに並材価格は需要の低迷により、5月以降の伐採は控えられ、7月に入り出材量が急激に減少したことから、ヒノキは下げ止まりの傾向が見られる。 <p>【製材工場等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県の製材工場では稼働率は8割前後と低調であり、今後の需要も厳しい見込みとなっている中で、電気代、輸送コストも高騰しており、経費負担が増加している状況のなか、製品価格は若干下落傾向にある。 ・岡山県内の製材工場では、土台、柱、間柱に荷動きが出てきているほか、一時低調であった中国や韓国等向けの輸出についても回復してきている。 <p>【プレカット、住宅着工等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県内のプレカット工場では、稼働率は8割前後と低調であり、物価高、住宅ローン・金利の引き上げ等の影響を受け、今後の需要も大変厳しい見込みとなっている。
--

令和5年度 各森林管理局の国有林材供給調整検討委員会の検討結果について

四国森林管理局

1. 今年度の供給調整検討委員会の検討結果

委員会開催日	検討結果
令和5年6月20日	製材品の荷動き、丸太の動きが鈍化しているとの声が聞かれる中、特にスギ丸太については価格の下落傾向がみられるが、山側の出材については、梅雨や台風など天候に左右されやすい時期であり出材自体が不安定になることや原木価格の下落を受けて出材が少なくなること、等を心配する意見もあり、国有林には安定した供給が求められている。このため、国有林では供給調整を行う必要はないが、引き続き民有林材の出材状況や製材品の動向等に注視しつつ、需給動向を見極めていくこととする。
令和5年9月25日	木材製品の荷動きは全般的に鈍化しているが、ヒノキの一部銘柄については一定の需要が見受けられ、原木もヒノキについては安定した引き合いで価格も横ばいで推移しており、市場によっては品薄感もみられるようになっている。こうした状況を踏まえ、国有林では供給調整は行わず、民有林材の出材状況や製材品の動向等に注視しつつ、需給動向を見極めていくべきである。

2. 直近の供給調整検討委員会における主な意見

令和5年度第2回国有林材供給調整検討委員会(令和5年9月25日)

検討結果「供給調整の必要なし。ただし、民有林材の出材状況や製材品の動向等に注視しつつ、需給動向を見極めていくべきである。」

<p>【素材生産等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月以降、天候不順により素材生産量が減少傾向にあった。最近はスギの荷動きが鈍い状況が続くが、ヒノキは品薄感から引き合いがあると感じる。 <p>【原木市場等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天候不順により入荷量は減少傾向にあり、比較的価格は維持できているように思うが、スギはまだしばらく下落傾向が続くと思われる。荷動きもスギは低調だが、ヒノキは引き合いがあり、安定している。 <p>【製材工場等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品単価はほぼ横ばいで販売してきているが、8月に入り構造材、羽柄材とも販売が失速しており、減産を余儀なくされている。 ・製品価格がコロナ前に近づいている中で、各種経費が増してきており、採算が悪化している。 <p>【プレカット、住宅着工等】</p> <p>—</p>
--

令和5年度 各森林管理局の国有林材供給調整検討委員会の検討結果について

九州森林管理局

1. 今年度の供給調整検討委員会の検討結果

委員会開催日	検討結果
令和5年6月28日	現時点での供給調整は必要ないが、原木の出材や価格の動向、工場等の原木仕入れ状況、木材製品の出荷や価格、輸入材の動向などを注視しつつ需給バランスを見極めながら、計画的な供給に努めるべきである。
令和5年9月27日	現時点での供給調整は必要ないが、原木の出材や価格の動向、工場等の原木仕入れ状況、木材製品の出荷や価格、輸入材の動向などを注視しつつ需給バランスを見極めながら、計画的な供給に努めるべきである。

2. 直近の供給調整検討委員会における主な意見

令和5年度第2回国有林材供給調整検討委員会(令和5年9月27日)

検討結果「供給調整の必要なし。ただし、木材需給動向を注視しつつ、需給バランスを見極めながら計画的な供給に努める必要がある」

<p>【素材生産業】</p> <ul style="list-style-type: none">天候不良等の関係で6月以降出材量が徐々に減少。A・B材の単価が安い一方で、バイオマスや輸出向けの丸太は価格が下がっていないため、低質材が多い山の伐採を進める動きがみられる。
<p>【原木市場等】</p> <ul style="list-style-type: none">原木の出材が急激に減ってきて、8月になってから急激に丸太価格が上がってきた。一方で製品の売れ行きは依然として厳しいことから、出材量の回復が価格に影響しないか心配である。
<p>【製材工場等】</p> <ul style="list-style-type: none">合板工場では約3割の減産を実施しているが、出荷量に見合った生産となっており、在庫量に変化はない。近頃スギの出材量が減っていると感じており、出材の安定を望む。製材品は売れ行きが悪く価格も下落してきており、特に柱を中心とした構造材が悪くなっている一方で、羽柄材や間柱材は感覚的に底を打ったように感じる。出材量が減少しており、工場によっては在庫がほとんどないところもみられる。
<p>【プレカット、住宅着工等】</p> <ul style="list-style-type: none">プレカット業界の受注状況は前年比で20%から30%さがっている。小さい工場で廃業の動きも見られており、まだしばらく非常に厳しい状況が続くと予想している。